

なかぐすく
中城村
Nakagusuku
Village

What remains the same
変わらないもの

五百有余年変わらぬ「中城城跡」。

悠久の歴史を物語る石垣は今に残る。

私たちは先人たちの文化を

これからも伝え残します。

Nakagusuku
Castle Ruins

こども達の笑顔のために
優しさをつなぐ
中城村。



中城村村勢要覧

中城村

いにしえより変わらない中城城をはじめ
伝統芸能など歴史文化が息づき
笑顔あふれる人々が集い
発展していくまち。



村章

円は村民の和を表し、巴は護佐丸の紋を形どったもので誠実を表し、「中」の字と突出部は、村名と村の発展を表現している。
(昭和54年3月10日「告示第14号」)



村花 - ハイビスカス



村木 - クロキ (リュウキュウコクタン)



村魚 - イジュキン (モイヨリ)



中城村マスコットキャラクター

5月30日はごさまるの日
中城村では、歴史・文化・自然への関心を深め、次世代への伝統文化継承と郷土を愛する心を育むことを目的として、5月30日を「ごさまるの日」として条例を制定しました。

人々の笑顔と優しさがあふれる

なかぐすく
Nakagusuku

子育てしやすいまち ランキング全国2位!

日本経済新聞
子育てしやすいまちランキング
全国2位(2015年)



CONTENTS

プロローグ 2p

中城村にみんな集まれ~!
子育てしやすいまちランキング全国2位!

中城人 4p

琉球漆器 宮城清
プロ野球選手 多田野真三郎
組踊り後者・舞踊家 東江祐吉
マスターズ陸上女子400リレーチーム中城
伊波要子 入高島みゆき 呉屋清香 儀間由紀美

探訪中城城跡 6p

ボランティアガイドと訪ねる中城城跡

護佐丸阿麻和利の乱 10p

琉球王国を揺るがす歴史ドラマ

中城城の活用 12p

祭り 14p

中城護佐丸まつり
とよむ中城産業まつり
文化まつり

伝統芸能 16p

伊集の打花鼓
和宇慶の獅子舞
津覇の獅子舞・津覇のエイサー
添石の旗頭

イラストマップ 20p

中城村の文化財 22p

中城村の歩み 23p

発展する若いまち「南上原」地区 24p

歴史の道「ハンタ道」 25p

中城村護佐丸歴史資料図書館 26p

サッカーキャンプ誘致事業 27p

第四次総合計画の基本理念 28p

「自然・歴史・文化」を受け継ぐ村づくり
「安全・安心」を築く村づくり
「暮らし」を描く村づくり

「人」 30p

「環境」 37p

「仕事」 39p

地域紹介 42p

中城の昔話 44p

中城村民の歌 45p

中城村民憲章 46p

中城村に
みんな集まれ！



子どもたち
吉の浦保育所年長さん



中城村マスコット
キャラクター
護佐丸

「ふるさと」に
生き続けること。



琉球漆器(伝統工芸士)

宮城 清さん

宮城清さん(72歳)は沖縄戦が終わってまもない幼少のころ、散在する日本軍の焼夷弾が自然発火で爆発した事故で被災した。そのため、友だちを失い自らも大きな火傷を負った。事件は誤解やいじめなどを誘発し「ふるさと」に住むことの辛さを抱えることになった。それを跳ね返し、人生の後押しをしてくれたのが「漆」であった。工業高校で「漆」の学内個展が高く評価されたのである。絵の好きなことと緻密で研究熱心な宮城さんは、自ら漆の樹を栽培したり、膨大な歴史書や専門書を読みあさった。漆に独自に温度を加え、攪拌して艶を出す手法で本物の漆を追求している。やがて宮城さんは「漆」を独自に究め、1991年には通産大臣指定の「伝統工芸士」に認定される。2016年には天皇陛下から勲章を賜る。宮城さんは、ほかに「漆」の普及のため沖縄県などのさまざまな委員を務め、展示会の開催、研究発表、また地域活動も精力的に行っている。とりわけ教育啓蒙活動には熱意を燃やす。宮城さんの生き方に「漆」と「ひと助け」が両輪になっているのは、「ふるさと」で少年のころ友だちを失った苛酷な経験と、人生に勇気をもたらした「漆」である。宮城さんの終生の目標は、才能ある子どもたちを支援していきたいという。



埼玉西武ライオンズ

多和田 真三郎さん

2015年、中城村出身の多和田真三郎さんが、プロ野球ドラフトで埼玉西武ライオンズから単独1位指名で入団。大学時代の数々の賞の獲得。体の柔軟性やストレートの質は、その年のドラフト投手のなかでもナンバーワンの評価。その大きなステップ幅の独特なフォームは「オンリーワン」と期待を寄せる。球団も「チームの柱としてを活躍してほしい」と話した。そのニュースは、地元を喜びで沸き返らせた。なんと人口1万9000人のうち400人以上が多和田選手の実家に駆けつける騒ぎとなった。急遽、近くの集会所へ祝宴先を移動。「村からの初めてのプロ野球選手の誕生」に村民こぞって喜びの声をあげたのである。「自然豊かな故郷の地で、思いっきり野球ができたことが幸せ」と多和田さんはインタビューで開口一番。「同級生、指導者、家族みんなで自分を支えてくれた、じぶんが野球界で活躍することが、みなさんへの恩返しになる」と言う。「プロのトップに立って地元のひとたちに“希望”を持たせることができればいい」とも。そして、ここまで来れたのは、何より家族の支えと強調する。「小さいときは、父、母、兄弟みんながキャッチボールの相手をしてくれた。」「とくに母(もと子さん)は福井出身。慣れない異郷で明るく地元のひとたちに飛び込んでいった。サーターアンダーギーもよくつくってくれましたよ」と、いまの自分があるのも母のおかげと目を輝かせた。



地域と家族が育ててくれた。

南上原地区に 芸能を誕生させたい。



組踊り役者・舞踊家
東江 祐吉さん

「組踊を伝統芸能のない南上原地区に、ぜひとも根づかせたいんですよ」。そう目を輝かせるのは、いま組踊界で新風を巻き起こしている南上原に住む東江祐吉さん(42歳)だ。郵便局に勤務。母校の沖縄県立芸術大学で組踊の実技指導を務めながら、自らの琉球芸能を切磋琢磨する毎日である。舞踊家であった母の勧めで8歳から始めたこの世界、芸が体に染みついていると言えども、先輩方からの芸の習得に日々余念がない。伝統芸に根ざしながら「新作の組踊」に日々取り組み目指すもの、たくさんの人たちに組踊の魅力を知ってもらい、劇場まで足を運んでもらいたいから。東江さんの芸道に培われたスター性のある風貌は、いま老若問わず女性たちの心も動かし始めている。「新しい組踊にも挑戦し、たくさんの方々に観てもらうためには、じぶんたちの努力しかありません」と真摯な顔を見せる。6年前からスタートした、南上原地区の子ども創作組踊「糸蒲の縁」。東江さんは伝統芸能のない地域にも目を向ける。その昔、陸の孤島と言われ、最近では中城一の都会になった南上原地区だからこそ、芸能を誕生させたいと言う。「この演目はあと、少なくともあと10年は続けますよ」。東江さんが「地域をおもう」凛々しい顔で笑った。

G3Oas(ジーサーティアスリート)

伊波 要子さん 入高島 みゆきさん
呉屋 清香さん 儀間 由紀美さん

ごさまる陸上競技場を練習拠点に日々トレーニングに励む「G3Oas(ジーサーティアスリート)」。チーム名のG3O「ごさまる」も中城を愛するメンバーの思いが詰まっている。メンバーは、中城村民と村内在勤者で日本記録の樹立を目標に、2016年にチームを結成。メンバー全員が県大会個人種目で優勝経験を持つトップアスリートだ。

2016年6月に開催された「第36回沖縄マスタース選手権大会」で、30才～35オクラス4×100Mリレーに出場。悪天候にも関わらず持ち前のチームワークでバトンを繋ぎ、みごと52秒76の日本記録をたたき出した。日本記録樹立は、家庭と仕事を抱えながらもメンバー4人で励まし支えあって猛練習を積み重ね、またそれを支える家族や地域の関係者の協力があったの賜だろう。まさに中城魂がそこにはあるのだ。「リレー種目は、バトンの受け渡しが難しく、みんなの思いがひとつにならないと記録はでない」と話し、「この4人で走れたからこそ出せた記録」と口を揃える。

また、日本記録樹立を家族や地域の方々に喜んでもらったのが、何よりうれしいと支えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れない4人。今後の、日本記録更新に意欲をみせるG3Oas(ジーサーティアスリート)は更なる飛躍に期待が膨らむ。



中城魂で日本一



中城城跡と言えば、2000年に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に登録された名城。県内約300のグスクの中でも琉球史における歴史的な位置、築城技術、保存状態などで貴重な城跡です。現在沖縄県が中城城跡周辺で実施している中城公園の整備事業が進捗するなか、外国や県内外から多くの観光客が訪れています。そこで地域を愛するグスクの会のボランティアガイドの百名さんと中村さんに女子旅三人娘を案内してもらいます。

探訪中城城跡

なかぐすくじょうあと

Searching the Nakagusuku Castle Ruins

Nakagusuku Castle Ruins, listed in the Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu in 2000, is one of Japan's most famous castles. Elements such as their historical position in the history of the Ryukyus, the technology used in their construction, and their level of preservation makes these castle ruins highly valuable even among the 300 or so castles in the prefecture. As the Nakagusuku Park improvement project being implemented by Okinawa prefecture proceeds, many visitors from abroad, from Okinawa, and from the rest of Japan are visiting. We had Ms. Hyakuna and Ms. Nakamura, who are volunteer guides from the Gusuku Association give a tour to a group of three young travelers.



「裏門」＝沖縄で一番保存状態のいいアーチ状の門。ペリー一行がエジプト式と評したことで有名。



城内に入る前に模型で説明。



名人ガイド登場 百名一子さん

「このグスクは一人の城主が一挙に造りあげたものではなくて、先中城按司や護佐丸によって正門からこの裏門へと長い年月をかけて段階的にお城が延びてきたのが、石の積み方などでわかります」と案内をする百名一子さん。

「ガイドになったきっかけは、中城に移って来て、地元のことが何もわからない時、中城城跡の世界遺産の話しがもちあがり、地元の中城城跡のことが知りたいと思いボランティアガイド講座を受けたのがきっかけでした。ガイド歴(18年)は長いのですが、まだまだ満足のいく案内ができず勉強中です」と語る。





「三の郭」=城壁の曲線が美しい。右は裏門



↑三の郭入口の急勾配な階段

←三の郭入口の石畳道



「北の郭」=階段を下った先にウフガーがある



「二の郭」=南は知念半島から北東は勝連半島までが見渡せる。



北の郭にある狭間

「ウフガー」=北の郭にある井戸。この井戸を守るために北の郭はつくられたと言われる。

百名一子さんに案内してもらう
【北の郭の裏門とウフガー・三の郭・二の郭】
 コースは「北の郭」の裏門とウフガー・「三の郭」・「二の郭」。
 「裏門」に向かって左側、「三の郭」の城壁が琉球のグスク時代における最高度の土木技術「あいかた積み」で築かれていて、角の部分が丸く面取られ美しく造られている。
 「北の郭」の「ウフガー」は、どんなかんばつでも枯れず、なおかつ、どんな大雨でも溢れることはない。その理由

は地下に排水溝があり、溢れる水は城外へ排出される仕組みになっているそう。
 天気の良い日は「二の郭」の眼下に太平洋が開け、南に知念半島、北東に勝連半島、紺碧の海には、津堅島や、はるか久高島も見える。また、東シナ海側の海岸線も望むことができ、北谷町や読谷村まで見える絶好のビューポイントである。

中村弘光さんに案内してもらおう
【正門・西の郭・南の郭・一の郭】
 中村さんは先中城按司が築いた四つの郭などを案内。「正門」は木造の櫓門だったと考えられる。
 南の郭に上る階段は段違いになっていて諸説あり謎である。「南の郭」は祈りの場所である。「雨乞ノ御イベ」は、天に恵みの雨を願ったのだらうか。「御當蔵火神」と「小城ノ御イベ」は、首里城や久高島への遙拝所であった。グスクにまつわる沖縄戦の話にも注目。戦時中、日本軍が岩盤を掘って



[⑦カンジャーガマ]＝琉球石灰岩の岩盤をくり抜いて造られたカンジャー（鍛冶屋）の跡。城主のための武具や農民のための農具を作ったとされている。

[⑥ビューポイント]＝カンジャーガマの付近は中城の東海岸が一望できる観光客感激のビューポイントだ。



「謎の段違い階段」

[正門]＝グスクを守るためのいろんな工夫がみられる。正門をはさむようにして両側に石垣がせり出し、守りやすく、攻めにくい造りになっている

陣地壕を計画。ところが強個な岩盤のため工事を断念した。ここに陣地が構築されていたら、首里城跡と同じように、徹底的に米軍に破壊されたかもしれません。
 また石積みには、「野面積み」「布積み」「相方積み」があり、その高度な技術の変遷が見られる。
 最後に「中城城跡」は、曲線が美しい芸術作品だと胸を張った。

達人ガイド登場 中村弘光さん

「お客さんが、こんな美人ぞろいじゃ、今日はつい張り切ってしまうなあ」と、お客さんを笑わせるのは中村弘光さん。そのユーモアから引き出される案内は、个性的だ。中村さんが解説を始めた当初は役場に務めながらグスクの会に所属。あしかけ16年もグスク案内のボランティアに携わってきた。その人間味ある興味深い案内は人気が高い。

平成21年には、中城城跡を讃えた民謡「中城城讃歌」を作詞し、ラジオ局が主催する「新唄大賞」の大衆賞を受賞。多彩な才能でグスク解説の“興味”を倍増させる。



中城城跡の石積みには ① 野面積み（大小様々な自然の石を組み合わせて積む）、② 布積み（直方体に加工した石を布を織るように一段ずつ積む、仕上げは綺麗だがやや強度に欠ける）、③ 相方積み（多角形に加工した石を緻密に組み合わせる。力を分散させるので強い石積み）



①野面積み
(南の郭)



②布積み
(一の郭)



③相方積み(亀甲乱れ積み)
(三の郭)

中城城跡には三種類の石積みがあります

探訪 中城城跡

1853年



1853年に来島したペリー艦隊から派遣された『琉球奥地探検隊』一行の絵師・ハイネが描いた絵は後に中城城跡を修復するときの参考資料になりました。(西の郭内から正門付近をながめた風景)

現在はない南の郭のアーチ門 2017年

9



左のハイネが描いた絵と同じ角度で見える風景。絵の中央にある小屋や南の郭のアーチ門は現在に残っていない。

〔南の郭〕=ここは久高島や首里グスクに向けて祈る神聖な場所で、「祈りのためのグスク」の雰囲気の色濃く漂わせている。

10



雨乞ノ御イベ

11



御當藏火神

12



小城ノ御イベ

13



〔一の郭〕=中城城跡で最も広い郭で正殿があった場所。城主を守るための御嶽(中森ノ御イベ)がある。後に間切番所(まぎりばんじょ)、廃藩置県後は中城村役場があったが、沖縄戦で焼失した。

かつてここに正殿があり、護佐丸、阿麻和利の乱の舞台となった。

南の郭の狭間

世界遺産「中城城跡」の魅力を伝えるボランティアガイド「グスクの会」

無料でガイドします



中城村教育委員会が主催するボランティアガイド養成講座の卒業生たちが平成14年に結成したのが「グスクの会」です。現在51名の会員。中城城跡を案内しながら、グスクの歴史、構造、エピソードなどをわかりやすく解説してくれます。案内をご希望の団体・家族など(2~3名から)は1週間以上前にお問い合わせのうえご予約下さい。

TEL.098-935-5719(要予約)



ここに先中城按司や護佐丸の正殿があったのです

琉球王国を揺るがす歴史ドラマ

尚巴志が三山を統一し琉球王国を築いたものの、まだ王府の基盤は弱く群雄割拠が続いていた、特に勝連グスクを根拠地とする阿麻和利が強力であった。

尚巴志は、勝連城主を牽制するため、首里グスクから勝連グスクの間に位置する中城グスクへ護佐丸を移封した。護佐丸は1440年に中城グスクに移り増改築にとりかかった。

その後、琉球王国は尚泰久が第6代国王となった。護佐丸の娘を正室としていた尚泰久王は娘の百度踏揚を阿麻和利に嫁がせ、護佐丸・阿麻和利の有力按司との姻戚関係を結んだ。

1458年、護佐丸・阿麻和利の乱が勃発した。正史によると、阿麻和利に対抗するため護佐丸が兵馬を整えているのを阿麻和利が護佐丸に謀反の動きがあると王府に讒言。尚泰久王は護佐丸がよもや謀反をおこなうなど信じなかったが、念のため中城グスクを探らせると、護佐丸軍が兵馬の訓練をしていた。驚いた尚泰久王は阿麻和利を総大将に任じ、旧暦八月十五夜、月見の宴を楽しんでいた中城グスクを包囲した。王府の旗を見た護佐丸は阿麻和利に謀られたと気づいたが、琉球国王に忠誠を誓う護佐丸は、王府軍には反撃せず、一族と共に自害した。

その後、仇敵の護佐丸を除いた阿麻和利は首里を急襲するが、王府軍によって滅ぼされた。

護佐丸の三男、盛親は乳母に抱きかかえられてグスクを脱出して生き延びた。その後、盛親は尚円王に登用されて豊見城間切の総地頭職に任ぜられ、その子孫からは三司官をはじめ、首里王府の主要な役職に多数が就き、琉球屈指の名門一族の一つとして栄えた。

【護佐丸】

生年不詳～1458年。恩納村にある山田城主の子として生まれ、1416年に尚巴志と共に、今帰仁グスクを攻め落とし、その功績が認められ読谷の地を与えられて座喜味グスクを築き城主となる。その後勢力を増やしていた勝連城主をけん制するため王の命により中城に拠点を移す。



The Historical Drama That Shook the Ryukyu Kingdom

Although Sho Hashi had founded the Ryukyu Kingdom by unifying the three kingdoms of Chuzan, Hokuzan, and Nanzan, the foundations of the royal government were still weak, and rivalries between local warlords continued. Of these local warlords, Amawari, based out of Katsuren Gusuku, was particularly strong.

In order to place a check on the lord of Katsuren Castle, Sho Hashi forced Gosamaru to relocate from Shuri Gusuku to Nakagusuku Castle, which was located in between Shuri Castle and Katsuren Castle. In 1440, Gosamaru moved to Nakagusuku Castle and set to work expanding and renovating it.

Later, Sho Taikyū became the 6th king of the Ryukyu Kingdom. King Sho Taikyū, who had taken Gosamaru's daughter as his legal wife, married his own daughter Momoto Fumiagari to Amawari, forming a relation by marriage between the two influential chieftains.

In 1458, civil war broke out between Gosamaru and Amawari. According to the official history, Gosamaru fell victim to calumny, as Amawari falsely reported the royal government that the troops Gosamaru was amassing to fight him were actually to launch an insurrection against the royal government. While King Sho Taikyū did believe that Gosamaru would surely not launch an insurrection against him, he investigated Nakagusuku Castle just in case. There, he was shocked to see the troops of Gosamaru's army training, and named Amawari as supreme commander of the royal army. Amawari then surrounded Nakagusuku Castle as its residents were enjoying moon-viewing banquets on August 15th of the lunar calendar. Seeing the flag of the royal government, Gosamaru realized he had been deceived by Amawari, but having sworn loyalty to the Ryukyu Kingdom, he did not resist the royal government's army. Instead, he and most of this family committed suicide.

Having eliminated Gosamaru, his bitter enemy, Amawari later attacked Shuri but was destroyed by the royal army.

Gosamaru's 3rd son, Seishin, survived by being carried out of the castle by his wet nurse. Later, Seishin was appointed by King Sho En as the administrator of Tomigusuku Magiri (administrative district). His descendants took on many major positions in the Shuri royal government, including as members of the Sanshikan, or council of three, making them one of the most prosperous families in the Ryukyu Kingdom.

【阿麻和利】

生年不詳～1458年。沖縄本島中部、与勝半島を勢力下に置いた按司。第一尚氏王統の第六代国王・尚泰久の娘である百度踏場（もとふみあがり）を妻に迎えており、同王の娘婿の立場にあった。史書によれば、奸計を用いて中城城主の護佐丸（ごさまる）を討ち、さらには首里グスク攻略の野望をも抱いたが、王府の差し向けた軍に攻め滅ぼされたとされる。このため最近まで忠臣・護佐丸、奸臣・阿麻和利（あまわり）のイメージがあったが、近年では再評価されつつある。

阿護佐丸、 阿麻和利の乱





世界遺産中城城跡を 活用したイベント事業

Events that Leverage the
World Heritage Site Nakagusuku Castle Ruins



わかつてだを見る集い
「わかつてだ(初日)」からパワーをいただく

Okinawan New Year's Sunrise Viewing

In olden times, the "Tunjii" (winter solstice) was believed by the people of Okinawa to be the day that marks the rebirth of the sun, and was known as "Tunjii Shogatsu." The Okinawan New Year's Sunrise Viewing is an event to welcome and honor the "Wakateda" (the sunrise on new year's day) at the Nakagusuku Castle Ruins. This event gives celebrants the strength to thrive, and serves as a prayer for the eternal growth of the villages of Nakagusuku and Kitanakagusuku.

From before sunrise on the day of the December solstice, performers sing classical Okinawan music, perform Ryukyuan dances, and showcase traditional performing arts. These performances continue even after the majestic sunrise.

After the event, volunteer guides from the Nakagusuku Gusuku no Kai provide free tours of the Nakagusuku Castle Ruins, allowing visitors to learn about Nakagusuku's place in history.



昔から沖縄では冬至(トウンジー)の日は太陽が生まれ変わる日で、「トウンジー正月」といわれていました。「わかつてだ(初日)」を世界遺産中城城跡で迎え、讃えることで強く生き抜く力を育むとともに、中城・北中城両村が未来永劫に発展することを祈願する行事です。

12月の冬至の日、日の出前から、古典音楽斉唱、琉球舞踊、伝統芸能などが披露され、敵かに日の出を迎えた後、さらに芸能が続けます。

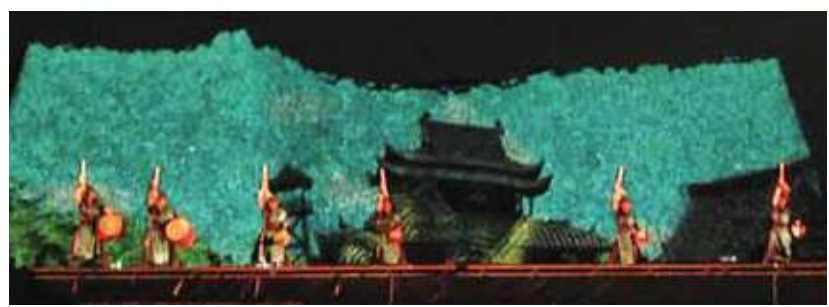
終了後には、ボランティアガイド「中城グスクの会」による中城城跡の案内が無料であり、歴史における「中城」を知ることができます。



Projection Mapping Events

These unique performances combine the village's traditional performing arts with images projected onto the ramparts of Nakagusuku Castle's third enclosure, allowing visitors to experience the legend of Nakagusuku Castle's lord and local hero, Gosamaru.

As part of the village's tourism promotion project, the event is aimed at creating a new nighttime attraction at the Nakagusuku Castle Ruins, increasing their visibility and bringing in more visitors.



プロジェクション マッピング事業

世界遺産中城城跡「三の郭」城壁に映し出すプロジェクションマッピングの映像と、村の伝統芸能を融合させた独自の演出で、中城の城主であり村の英雄でもある「護佐丸」の伝説をわかりやすく伝えるイベントです。観光振興事業の一環として、夜の中城城跡の新たな魅力を創出し、中城城跡の認知度向上と観光客数増を目指しています。



イベント誘致事業

世界遺産中城城跡は歴史的な価値があるだけでなく、様々なイベントを開催するのに適した馬場の広場を有していることから、本村ではイベント誘致事業に力を入れています。これまでも数々の有名なアーティストによるコンサート、演劇や歌舞伎、狂言の舞台を開催し、県内外からの観光客増に向けて取り組んでいます。

Event Solicitation Projects

Nakagusuku Castle has more than just historical value; it also has a wide open space that used to be a horse training ground, which is perfect for holding events. As such, Nakagusuku Village puts a great deal of effort into soliciting events in order to increase the number of tourists from within and without the prefecture. So far, the castle grounds have hosted concerts by numerous major performing artists, theatre productions, and performances of traditional Japanese Kabuki and Kyogen theatre.

中城村の祭

村民みんなが主役のまつり

Nakagusuku Gosamaru Festival

Village Residents Are the Stars of Nakagusuku Festivals

The Nakagusuku Gosamaru Festival, which is held at the World Heritage Site Nakagusuku Castle Ruins, draws many spectators from inside and outside the village, and radiates a surge of energy and excitement on each occasion.

Springing from the idea that all village residents should play an active part, the Nakagusuku Gosamaru Festival has become established as the village's largest festival with performances of Taaf-wakuu drama, lion dances, live concerts by artists hailing from Nakagusuku and a variety of other traditional performing arts and events, and the evening wraps up with a volley of fireworks.

世界遺産中城城跡を会場に開催される中城護佐丸まつりは、多くの村民や村外からの観客を動員し、毎回盛り上がりを見せています。

「村民参加のまつり」をモットーに、打花鼓、獅子舞、村出身のアーティストによるライブなど多彩な伝統芸能やイベント、花火をくりひろげ、村の一大イベントとして定着しています。

中城護佐丸まつり



「とてもよいむら 中城 とよむ中城産業まつり」

とよむ中城産業まつり

中城村内で生産、製造又は提供される全産業の製品を村内外にアピールするとともに販売量と市場の拡大を図ることを目的に3年に1度、開催いたします。製品の展示及び即売を通じて、生産、加工、販売及び消費する方々が交流や商談を行うことで、中城村の産業の振興と発展、更には住民生活の向上に寄与することはもちろんのこと、斬新な発想や消費者の声を反映した新たな製品や産業の誕生に寄与することを目指して実施しております。



Toyomu Nakagusuku Industrial Festival

The Toyomu Nakagusuku Industrial Festival is held every three years to promote both internally and externally the products from all industries that are produced, manufactured and provided in Nakagusuku Village, as well as to increase sales and expand markets for these products. The aim in holding the festival is, through product exhibition and sales, to enable people engaged in production, processing, sale and consumption to network and negotiate with each other, which promotes and develops industry in Nakagusuku Village, and, moreover, improves people's lives, and contributes to the emergence of new products and industries that reflect innovative ideas and consumer sentiment.

文化の「継承・創造・発展」がテーマ

Nakagusuku Culture Festival

Carrying on, Creating & Developing Our Culture

The Nakagusuku Culture Festival is held to enhance understanding of the arts and cultural activities as well as to carry on, create and develop our culture through the exhibition of outstanding works exhibited by clubs affiliated with the Nakagusuku Village Culture Association and works solicited from the public along with stage performances of traditional arts and other such activities.

中城文化まつりは、村文化協会の各サークルの優れた作品や一般からの公募作品の展示や伝統芸能などの舞台発表を通して、芸術・文化活動についての理解を深め、文化の継承と創造・発展を図るために開催されています。

中城文化まつり



伝統芸能

traditional culture



【県指定無形民俗文化財】
ターファークー

伊集の打花鼓

打花鼓は中国から渡来した久米36姓によって、まず那覇市久米に伝わりましたが、時期については定かではありません。久米では毎年の三六九（サンルーチュウ、学芸会）後の宴で演じる慣行がありました。

誰が伝えたかはいろいろ説がありますが、那覇に下男奉公に行っていたナーフアーヌヤー（屋号）という人が、那覇から伊集に持ち帰り、息子に教え、その息子が当時の伊集の青年に教えたのが始まりというのが有力な説です。伊集の打花鼓の特徴はなんといってもダイナミックさ。その激しさゆえに20才前後の若者だけで演じられます。

出演者は筑佐事二人、ガクブラ吹き二人、唐の按司一人、フウジョー持ち一人、御涼傘持ち一人、ドラ鐘打ち一人、ハンシー鐘打ち一人、ブイ打ち一人、太鼓打ち一人の11名に地謡が2〜3人。

踊りは行列踊りで、三線の演奏で筑佐事、唐の按司、フウジョー持ち、御涼傘持ち、太鼓打ちがそれぞれの楽器を演奏しながら踊ります。踊りの所作は独特で、特にハンシー鐘打ち、ブイ打ち、太鼓打ちは中国独特のとぶ、ひねり、屈伸の連続で軽わざ師的にリズムカルでダイナミックに踊り続けます。



ブイ打ち



ハンシー鐘打ち



太鼓打ち



Taafwakuu Drama of Iju

Kume Sanjurokusei, who traveled to Okinawa from China, first introduced Taafwakuu in the Kume district of Naha City, although it is not clear exactly when. Nevertheless, Taafwakuu was traditionally performed at the annual banquet after the Kume Sanruuchuu Arts Festival.

There are several theories about just who brought Taafwakuu to Iju in Nakagusuku. One leading explanation is that it began with a man known as Naafaanuyaa (house name), who was engaged as a servant in Naha. He is said to have taught it to his son in Iju, and then this son taught it to other youths living in Iju at the time. Iju Taafwakuu is characteristic for its dynamism. On account of the intense action, only young actors about 20 years of age are able to execute the maneuvers.

The cast is comprised of two detectives, two flutists, one Chinese prince, one tobacco pipe holder, one umbrella holder, one gong striker, one cymbalist, one percussionist, and one drummer in addition to two or three singers for the chorus.

The pattern of the dance is a procession. To the melody of Sanshin, the detectives, Chinese prince, tobacco pipe holder, umbrella holder and drummer dance as they play their respective instruments. Iju Taafwakuu dance movements are unique. In particular, the cymbalist, percussionist, and drummer all perform a series of Chinese-style leaps, twists, bends and stretches. Throughout the drama, they continue to dance in a rhythmical dynamic manner, almost as if they were performing gymnastics.

打花鼓保存会

宮城 秀一さん



長い間、「打花鼓」に関わってきました。今後も新会長の奥浜さんと一緒に「打花鼓」を盛り上げていきます。伊集という地域が小さく、どうしても後継者が不足しがちですが、「中学生打花鼓」などで若い時から「打花鼓」を身近に感じてもらいながら、伊集の若者の心意気を一緒に作り上げたいと思います。

打花鼓保存会会長

奥浜 眞一郎さん



伝統芸能に興味があった17才のとき、小さい頃に見た「打花鼓」が演じられなくなっている事に気づきました。先輩方に聞き取りをしたり、衣装を集めたりしたのが始まりです。それから50年間打花鼓を教えて継承してきました。伊集のみんなが、世界中に伊集にしかない「打花鼓」を絶やすわけにはいかないと、さらに継承発展に小・中・高校生・青年に教えているところです。

和宇慶獅子舞

和宇慶獅子舞は、普段は公民館に「神獅子」として安置され、和宇慶以外で演じられることはありません。和宇慶の獅子舞は18世紀の中頃に伝わったといわれています。沖縄戦で獅子は失われますが、1956年、区民の協力で復元され、40年間使用されました。引退した神獅子、今では「遊び獅子」として県内の様々なイベントで和宇慶の獅子舞を披露しています。十五夜まつりでは、幕開けに「神獅子」が《鳥の舞》、「遊び獅子」が舞台の最後を飾り《犬の舞》を演じます。

演者



新垣 良さん 新垣 薫さん

私たちも「和宇慶獅子舞」を舞うことに達成感を感じることができ、獅子舞をやるときに聞こえるお客様の歓声や、先輩たちがほめてくれるのが嬉しく、やりがいを感じています。これからも「和宇慶獅子舞」に誇りを持って演じていきます。

和宇慶獅子舞保存会 世話人

新垣 直也さん



現在会員が20代から70代までいて、会長を中心にまとまっています。私は世話人として、先輩方から引き継いだ「獅子舞」を若い人にうまく継承できるようにしています。伝統的な「神獅子」や創作した「遊び獅子」、小学生の「子ども獅子」など、これからも「和宇慶獅子舞」を通して、地域の和を大切にしていきたいです。



遊び獅子を囲んで



和宇慶の守り神「神獅子」



Wauke Lion Dance

The Wauke Lion Dance is something that cannot be viewed anywhere but in the Wauke district of Nakagusuku Village. Ordinarily, the mask and mane are enshrined at the Wauke Community Center where it is regarded as a "god" lion. The dance is said to have been introduced in the mid-18th century. The original lion was lost during the Battle of Okinawa. However, in 1956, Wauke residents came together and reconstructed the lion, which was used regularly over the next 40 years. This now "retired" lion is used as a newer "play" lion today for Wauke Lion Dance performances at events in Okinawa. At the Festival of the Night of the Full Moon, the "god" lion performs the "Bird Dance" at the rise of the curtain, and the "play" lion takes the stage at the end to perform the "Dog Dance."



津覇の獅子舞

津覇の獅子舞は、中城村の無形民俗文化財に指定された貴重な伝統芸能の一つです。1600年頃に伝わったといわれています。集落の拝所で行われ、五穀豊穡、無病息災、集落の繁栄を祈願する祭祀として演じられ奉納されます。

津覇の獅子舞には、剛をイメージした雄の舞と柔らかな所作を主体とした雌の舞があり、オス、メスの踊りを一頭の獅子で踊り分けるのが特徴です。

Tsuha Lion Dance

The Tsuha Lion Dance is one of Nakagusuku Village's precious traditional performing arts and has been designated as an Intangible Folk Cultural Property of the village. It is said that the dance was introduced around the year 1600. It is performed at places of worship in the Tsuha district, and is offered in connection with religious rites praying for a bountiful harvest, good health, and prosperity for the hamlet. The Tsuha Lion Dance is characteristic for the way the lion head is used in two separate dances: one male and one female where the masculine dance presents an image of strength and the feminine dance is comprised mainly of gentle movements.



津覇伝統芸能保存会
会長
新垣 健二さん



津覇の獅子舞は、ベテランから若手の16名の会員でやっていますが、特に若者たちが頑張っています。伝統芸能の稽古は厳しくなりますが、稽古が終わると、和気あいあいと楽しくやりたいですね。会の運営は、会の発展・団結のため、会則を作りしっかり運営しています。最近では地方も若者に頑張ってもらっていますが、会社等で忙しい時は、先輩方が代わったりしてうまくやっています。イベントにはベテランだけでなく、若者たちも出演してもらい後継者を育てています。獅子舞は、津覇にも和宇慶にも、他の字にもありますが、いっしょに中城村を盛り上げていきたいと思っています。

Tsuha Eisa

Tsuha eisa first appeared in the 1970s and is currently performed by about 30 members of the community youth group, which is comprised of a standard bearer, drummers, dancers and jokers. It is a fascinating sight to see the women move magnificently in unison and gesture with their hands to the forceful and soul-stirring beat of the drums.

The dancing style of the eisa line, which is a highlight of the performance, is spectacular. The formation quickly changes into crosses, circles and other patterns. The tempo gradually picks up to reach the dance's climax, evoking the unique ambience of Tsuha eisa not found anywhere else.

青年会会長
義間 透さん



津覇エイサーは約50年の歴史があります。先輩方から受け継いだ型が中心ですが、最近では会員が話し合い新しい振り付けも取り入れています。伝統的な型は残しつつ、プラスをしていく感じです。会員は津覇区の人々が中心ではありますが、他地域の方でもエイサーが好きであれば大歓迎です。一緒に楽しくエイサーをやりましょう。



1970年頃に発足した津覇のエイサーは、現在約30名の青年会員からなり、旗頭、太鼓、手踊り、チヨンダラーで構成されています。迫力ある勇壮なバチさばきに女性達の華麗な手踊りが見るものを魅了します。

エイサーの見所となる隊列では、十字や円など刻々と隊形を変えながら踊るスタイルが見ものです。徐々にテンポを速めてクライマックスを演じる手法は、他では見られない津覇エイサー独特の雰囲気をもっています。

津覇のエイサー



添石の旗頭

添石の旗頭は、平成17年に戦後60年ぶりに復活しました。戦前は村を払い清めるハタスガシのウガンの時に、毎年旗頭が出ていましたが、戦後途絶えていたのを、ハタスガシなのに肝心の旗がなければということで、復活することになったとのこと。

現在は毎年旧7月17日のハタスガシのウガンに、区内4カ所の拝所（ウタキ、ノロドンチ、ウフヤ、イリジョ）で旗頭を奉納しています。戦前と同じように「五穀豊穡」と「楽太平」の2本の旗頭があり、現在は交互に1本ずつ出しています。

Soeshi's Raising of the Standard

The tradition of raising the standard in Soeshi was revived in 2005, after an absence of 60 years since 1945 when the war ended. Before the war, the standard was raised as part of the Hatasugashi worship to purify the village, but the custom was halted after the war. It was restored as people called for its reinstitution, saying that Hatasugashi worship could not truly purify the village unless the standard was raised.

Today, during the Hatasugashi worship on July 17 of the lunar calendar each year, the standard is raised in offering at four worship sites in the district (Utaki, Norodonchi, Ufuyaa and Irijoo). Just as before the war, there are two standards. One reads "bountiful harvest" and the other "peace and tranquility." Only one is brought out at a time, alternating between the two.

添石の旗頭保存会 副会長

比嘉 健さん

現在旗頭の持ち手は20名程度です。戦後途絶えていた「添石の旗頭」を、歴代会長をはじめ、たくさんの先輩方が苦勞して復活させ、今に引き継いできたわけですが、少子高齢化、若者の地域離れ等の様々な要因で参加出来る人数が減少してきています。その対策の一つとして、子供の頃から地元の行事に関心を持ってもらうため、子供用の「旗頭」を製作し、行事に参加してもらう事を考えています。正月2日のカーウビーと旧暦7月17日のハタスガシは欠かさず行うようにしています。「旗頭」は重たいものです。それを持ち上げることで、添石区民の男気を見せましょう。そして、添石を盛り上げていきましょう。







① 中城村役場
Nakagusuku Village Office



② 中城村商工会
Nakagusuku Village Chamber of
Commerce and Industry



③ 吉の浦会館
Yoshi-no-Ura Hall



④ 中城村民体育館
Municipal Gymnasium



⑥ 護佐丸歴史資料図書館
GOSAMARU Historical Materials Library



⑦ ごさまる陸上競技場
Gosamaru Track Field



⑧ 中城村老人福祉センター
Nakagusuku Village
Senior Citizen Welfare Center



⑨ なかよし児童館地域子育て支援センター
Nakayoshi Childcare
Support Center

中城村の文化財

Nakagusuku Village Cultural Properties



⑥ 伊舎堂前の三本ガジマル (村指定史跡)

Three Gajumaru Trees in front of Ishado

500年程前の伊舎堂の集落は、中城城跡の近くにありました。現在の地に移住するとき、最初に移り住んだ三組の夫婦が記念に植えたと言われていますが、色々な説があります。

Among the many beliefs about the origin of these banyan trees, there is one story that says the three couples, who first moved to the hamlet of Ishado, planted them as a memorial. Legends about these trees are still told today.



⑨ 津覇のテラ Tsuha Tera (村指定有形民俗文化財)

霊石（ビジュル）を祀った拝所。「琉球国由来記」によると、津覇のカマド勝連という人が霊石を崇め、宮を建てたのが始まりとされています。ただし、なぜ崇めるようになったかは不明です。

The Tsuha tera enshrines sacred stones. Its origin is attributed to a man by the name of Sora Katsuren from Tsuha who worshipped sacred stones and built this shrine. It is unknown what prompted him to worship the stones.



⑩ 泊の大クワディサー (村指定天然記念物)

Tomari Kuwadeesaa (Village Designated Natural Monument)

地元の言い伝えによると、今から200年ほど前、首里王府から派遣されてきた中城間切番所の役人が任期を終えて離任する際、地元の人との別れを惜しんで植えた記念木といわれています。

According to local legend, this commemorative tree was planted about 200 years ago when a government official, who had been dispatched by the Shuri Court, was reluctantly bidding farewell to the local people as he had been ordered to leave his post.



⑪ 護佐丸の墓 Tomb of Gosamaru

護佐丸の死後、1686年にその子孫の毛氏豊見城家によって築かれたものです。護佐丸をはじめ第七代までの夫婦の遺骨が安置されているといわれています。現存する亀甲墓としては最も古いもので、文化的にもきわめて価値の高い墓です。

The ashes of the Ryukyuan lord (anji) Gosamaru and his descendants through the seventh generation are enshrined in this tomb. It has a very high cultural value as it is the oldest tortoise-shell tomb in existence.

⑫ 津覇の龕屋(ガンヤー) (村指定有形民俗文化財)

Buddhist Shrine (Gan) Alcove at Tsuha

龕とは遺体を入れた棺を墓まで運ぶものです。現在ではほとんど姿を消してしまいましたが、津覇では龕を保管する建物（龕屋）が保存されているほか、9年ごとに龕を塗り替える行事も残っています。

A gan is used for carrying the funerary box containing a person's remains to the tomb and is rarely seen in use today. In Tsuha, this structure for housing the gan has been preserved.



⑬ 安里のテラ (県指定有形民俗文化財)

Asato Tera (Prefecture Designated Tangible Folk-Cultural Property)

屋根が低い赤瓦の建物の内部には大小4つの霊石が並べられています。子孫繁栄、無病息災などを祈願する拝所で、沖縄の霊石信仰や洞窟の伴わないテラの形式を知る上で貴重な文化財です。

Inside the tera, four sacred stones ranging from small to large are arranged. At this sanctum, people pray for such things as their descendants' prosperity and good health. This is an important cultural asset for learning about the forms of tera in Okinawa.

⑭ 台グスク Castle Mount

中城城跡から数百メートル東方にあるグスク。護佐丸以前に中城を統治していた先中城按司の居所といわれています。中城村で最も高い位置にあり、絶景の地となっています。

This is an ancient castle site lying several hundred meters to the east of the Nakagusuku Castle Ruins. It is said to have been the residence of the lord who ruled Nakagusuku before Gosamaru.



⑮ 県道開削記念碑(新垣) (村指定史跡)

Nakagusuku Village Designated Historic Site

昭和9年10月、県道普天間与那原線（現在の県道35号線）の開通を記念して建立された碑です。当時、新垣集落は交通が不便で、道路の開通は長年の悲願でした。新垣出身の伊佐善俊などの努力が実を結び、昭和7年9月に起工、翌年4月に竣工しました。碑文は開通にいたる経緯を記すとともに、伊佐善則・善俊父子の功績を称える内容になっています。

This monument marks the opening of the Prefectural Road Futenma-Yonabaru Route (currently Prefectural Route 35) in October 1934. At the time, transportation to Arakaki Settlement was incredibly inconvenient, and the opening of this road fulfilled a long-awaited wish of many years. This road, on which construction started in September 1932 and completed in the following April, was the fruit of the efforts by Arakaki natives such as Zenshun Isa. The monument commemorates the events leading to the road's opening, and also extols the achievements of Zensoku Isa and his son Zenshun.



中城村の歩み

過去から現代そして未来へと続く「とよむ中城」のこころ

●先史時代

中城の誕生
中城村で最も古い遺跡は喜石原遺跡などの縄文時代後期の遺跡で、3千数百年前のものです。これら遺跡は中城の丘陵や台地に位置しており、当時の人々の暮らしは、魚や貝などの採取生活でした。このような状態が12世紀頃まで続きます。

●古琉球時代

中城の基礎が築かれる
12世紀頃になると農耕が始まり人口も増えてきます。12世紀から16世紀頃の集落も丘陵・台地上に形成され、これら集落をつなぐ道としてハンタ道が形作られていきます。そしてこれらの集落の中から地方豪族の按司が現れ、13世紀から15世紀にかけて新垣グスクや台グスク、中城グスクが築かれます。

中城が歴史に大きく登場するのはそれから30年後の1458年に起きた「護佐丸・阿麻和利の乱」。両雄が滅んでしまった真相はいまだ謎ですが、中山の第2尚氏（尚円）王統の基盤強化のひとつの過程であったともいわれています。

「護佐丸・阿麻和利の乱」以後、丘陵・台地上にあった集落群は農耕に適した海岸沿いの平野部に移ったと考えられます。

●琉球王国時代 中城の発展

第二尚氏王統にとって中城は大切な地域で、護佐丸が亡んで以降、王子の直轄領となりました。その理由のひとつは、肥沃なジャングル土壌で

生産力が高かったからです。薩摩支配（1609年）直後の間切別石高で、中城間切は全島の3000石を超え、9つの間切に入っています。中城間切はもとより、北中村、沖繩市諸見里、宜野湾市野嵩・普天間を含む27箇ムラから成っていました。さらにその後屋宜原、登又、北上原、南上原の屋取集落（土族の開墾地）が加わったのです。

●近現代 新たな中城へ

中城間切のムラは、1879（明治12）年の廃藩置県で沖縄県の所管となり、明治29年中頭郡に所属、そして明治41年の島しょ町村制で中城間切の12箇ムラと現北中城地域の11箇ムラ、計23箇ムラで中城村が成立しました。

明治・大正の頃の中城村は、中頭



中城城跡一の郭にあった中城村役場（昭和8年3月31日撮影 提供：野々村孝男）
1908年（明治41年）には島嶼町村制が実施され中城間切は中城村に、間切番所は役場へと改称された。

郡のなかでもサトウキビの生産高が高い純農村でした。昭和の初め頃の中城村は「移民村」として知られ、県全体の移民の10%近く、村内人口の20%以上の移民を海外に出していました。これは生産性の高さと相反する貧しさのあらわれともいわれています。

昭和20年の沖縄戦後、村は米軍施設によって南北に分断されたため、昭和21年5月に北部が北中城村として分村しました。

日本復帰後、軍用地のない本村は産業の振興に力を注ぎ、農業はサトウキビ中心から花卉、野菜、果樹など都市近郊型農業へと移行しています。産業では海岸沿いにはアルミ、製紙、製材などの工場が稼動し、沖縄電力の吉の浦火力発電所も建設されています。

文化面では、村の観光資源の核となる中城城跡の整備事業が着々と進み、南上原土地区画整理事業で学園都市としてのイメージが高まり、さらに住環境と文化交流の拠点づくりを進めています。

さらに地元の英雄で琉球史上最も有名な武将である「護佐丸」と、世界文化遺産「中城城跡」を中心とした琉球の歴史文化を学べる施設として護佐丸歴史資料図書館が建設されました。

とよむ中城 吉の浦のお月 みかげ照りわたる さびやねさみ

（名高い中城、吉の浦の月が照り輝いて、曇りひとつないように平和である）

この歌のところが、過去から現代、そして未来へと受け継がれていきます。

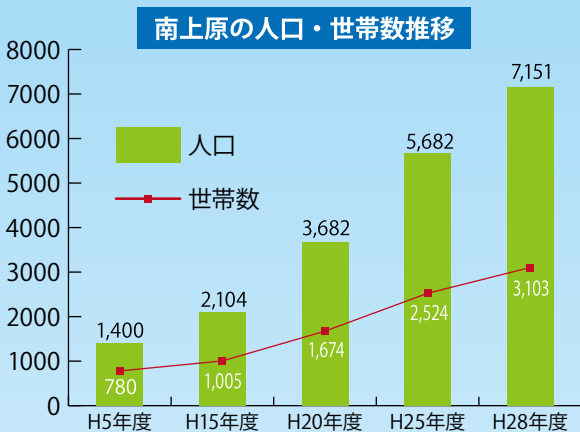


花の伊舎堂歌碑

「思ゆらば里前 島とまいていもれ 島や中城 花の伊舎堂」中城を歌った琉歌のなかで最も有名で広く親しまれている歌の碑です。若い娘の素朴な恋心が大らかに表現されています。（1959年建立）



南上原公民館



南上原地区は、那覇市や宜野湾市、沖縄市の都市圏外縁部に位置しており、国立琉球大学もあることから人口が増加し賑わいをみせています。中城村は秩序ある発展を目指し、自然環境と調和した安全で快適なまちづくりを行っています。

発展する若いまち 南上原地区。



南上原を南北に走る県道 29 号線



中城南小学校



子どもで賑わう糸蒲公園



あがいていた橋からの眺め



琉球大学中城口

Minami-Uebaru District A Growing Young Town

The Minami-Uebaru district is located along the edge of Naha City, Ginowan City and Okinawa City, and includes the University of the Ryukyus. This has led to an increase in the district's population and the area is bustling with activity. In the aim of developing the district in an orderly fashion, Nakagusuku Village is working to create a safe and pleasant district that is in harmony with the natural environment.



歴史の道

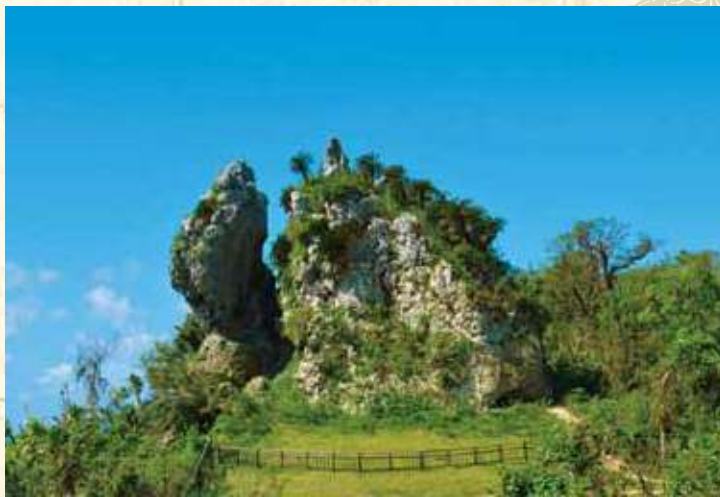
国の指定文化財

「中城ハంత道」

ハంత道は、首里グスクから中城グスクを経て勝連グスクにまで至る古道で、丘陵の端や崖添いを通ることから、「ハంత（端・崖道）」と中城村で呼ばれています。

グスクとグスクを結ぶとともに、集落と集落を結ぶ道でした。グスク時代の主要な道であったことから、「護佐丸・阿麻利の乱」など、様々な歴史の舞台になってきた道ともいわれています。

沿道には、糸蒲遺跡や安里村壱里山、新垣グスク、ペリーの旗立岩など貴重な文化財が点在していて、悠久の歴史に思いを馳せることができる道です。



2 ペリーの旗立岩

1853年、アメリカのペリー提督率いる黒船艦隊が那覇港に寄港しました。その時、調査隊が沖縄本島の調査を行い、中城グスクへ至るハంత道の道中でこの大岩を発見し、頂上に旗を立てたことからその名がつけました。



1 伊舎堂地区の石置



3 ウチバラノ殿



4 県道開削記念碑



5 キシマコノ獄 161.8高地陣地



7 南上原のユクヤー



6 安里村壱里山



8 糸蒲遺跡

中城村護佐丸歴史資料図書館

GOSAMARU Historical Materials Library

先人の生きた証しを知る憩いの空間

中城護佐丸歴史資料図書館は、地元の英雄で琉球史上最も有名な武将である「護佐丸」と、世界文化遺産「中城城跡」を中心とした琉球の歴史文化を学べる歴史展示室と、郷土資料を中心に収集する資料図書室、災害時の避難施設としての3つの機能を有する複合施設として建設されました。

企画展示室
歴史や文化に関する企画展や、文化講演会等、企画イベントに使用できます。災害等が発生した際は、住民の一時避難所としても使えます。

3F



- 1. 図書室全景
- 2. 受付カウンター
- 3. 新聞・雑誌コーナー
- 4. PC コーナー

2F



1F

- 1. 中城歴史展示室全景
- 2. 中城歴史展示室入口
- 3. 図書室全景
- 4. 図書室 PC コーナー
- 5. 休憩、談話室



とよむ中城の新たな象徴へ



サッカーキャンプ誘致事業 *Soccer Camp Attraction Program*

中城村ではスポーツコンベンションの推進を目指して、Jリーグプロサッカーチームのキャンプ誘致を行っております。ごさまる陸上競技場の芝の特性とクラブハウスやトレーニングルームの強みをいかし、これまで数球団がキャンプを行いました。キャンプ期間中は、一流選手の技術とキャンプならではのファンサービスを求めて、多くの観客が訪れています。また、村内の青少年を対象としたサッカー教室も実施しています。



チームの練習風景(上)と、見に来てくれた人へのファンサービス(下)、



中城村の子ども達が参加したサッカー教室



クラブハウス



ごさまる陸上競技場



トレーニングルーム

近年、沖縄では国内外のサッカークラブがキャンプを行っています。ごさまる陸上競技場でも、J1のクラブをはじめ、なでしこ JAPAN なども勝利へ向けて汗を流しました。



ガンバ大阪



川崎フロンターレ

中城村の将来像

心豊かな暮らし

～住みたい村とよむ中城～

「暮らし」 を描く村づくり

機能的で充足した生活環境や経済安定化を得ることによる活力の向上

村づくりの



「自然・歴史・文化」 を受け継ぐ村づくり

自然・歴史・文化の価値を再認識することによる村民共有財産の継承

基本理念

「安全・安心」 を築く村づくり

日々の暮らしの中での安全・安心が確保された環境の創出



Creating a village where residents take an active part

村民参加の活気ある村づくりを



Municipal Administration

Nakagusuku Village is aiming to become a village full of individuality and vitality by responding to the changes brought on by the 21st century, including population aging, informatization, and internationalization. Towards this goal, the village is aiming at achieving participatory governance in accordance with the concept of local autonomy. It does this by disclosing information publically, encouraging villager participation, and using networking to improve the efficiency of paperwork, thereby increasing the quality of its administrative services.

行政 Municipal Administration

中城村は、二十一世紀の高齢化、情報化、国際化などの時代潮流に対応し、個性的で活力ある村づくりをめざしています。その中で、地方自治に基づき、村民参加型の村政をめざし、情報公開、村民参加、ネットワーキ化による事務処理の効率化などきめ細やかな行政サービスの向上に努めています。



【広報紙】

「広報なかくすく」を発行し、行政の情報を村民へ広報しています。



「中城村ホームページ」では、行政情報をより迅速に正確に伝達しています。



【選挙】
民主政治の基本である選挙は村選挙管理委員会が中心となって公正な管理をしています。



【護佐丸バス】

護佐丸バスはこれまで中城村の課題であった公共交通の改善や交通弱者対策として、便利で利用しやすい公共交通体系を構築し、健やかに暮らせる環境の創出を基本目標に掲げています。高齢者をはじめとする交通弱者の村内移動の円滑化、路線バスと接続させることにおける利用者の行動範囲の拡大、村内各地域から通学する小中学生や、近隣市町村へ通う高校生の通学手段として、地域に根差した運行を目指しながら、生活の足となる福祉サービスの向上に努めています。

学校教育・社会教育・生涯スポーツ

学校教育 School Education

近年、学校教育を取り巻く社会情勢が大きく変化することで、新たな課題も生じています。本村では村教育委員会を中心に、学校、家庭、地域及びPTA活動や子ども会との連携のもと村ぐるみで、これらの課題解決に取り組んでいます。また、地域における伝統行事・スポーツ行事・自然体験など、生涯を通じた人間性豊かな人材の育成をめざしています。その他、急速に進む情報化社会に対応するため、小中学校にパソコンを設置し、児童生徒の情報活用能力の育成や目的意識の高揚に努めています。



【スクールバス運行】

南上原、北上原、新垣及び登又地区は台地地区にあり、村立小中学校及び幼稚園まで遠距離で、路線バスの運行がなく、登下校に支障をきたしていることから、道路運送法第78条第3項の規定に基づき、登下校支援に関する有償バスを運行し、中城村における幼児、児童及び生徒の登下校支援を図っています。

School Education

In recent years, the social situation surrounding school-based education has changed greatly, creating new challenges. The Nakagusuku Village Board of Education is leading a village-wide effort to solve these issues in collaboration with local schools, families, and the greater region, as well as with local PTAs and children's organizations. Further, the village also aims to develop individuals with richness of spirit through life-long learning, which includes traditional regional events, sporting events, and outdoor education. Additionally, in order to respond to the way that society is rapidly becoming more reliant on information technology, the village has installed computers at its elementary and junior high schools as part of an effort to develop students' ability to utilize IT while also elevating their sense of purpose.



「中城の歴史と文化を学ぶプロジェクト」 中城ごさまる科

護佐丸が造築、完成させた世界遺産 中城城跡 を中心に地理的、自然的特性や文化及び伝統を私たちの心の拠り所として将来へ向けて継承、発展させることを目的に平成24年度より「『護佐丸』『中城城跡』を通して、中城の歴史と文化を学ぶプロジェクト」を進めてきました。平成26年度からは、村内の3小学校で「中城ごさまる科」が実施され、全学年で副読本を用いた授業に取り組み、また中学校では、中学生用副読本「ありんくりん」も作成され、総合的学習の時間を活用して、郷土を愛する授業を行っています。

Learning the History and Culture of Nakagusuku – Nakagusuku Gosamaru Course

Since 2012, the village has promoted a project entitled “Learning the History and Culture of Nakagusuku through Gosamaru and the Nakagusuku Castle Ruins.” This project focuses on the World Heritage Site Nakagusuku Castle Ruins, which was built and completed by Gosamaru, and aims to pass on and develop the Site's geographical and natural characteristics, as well as its culture and tradition that are rooted in the region, as something to be proud of. Beginning in academic year 2014, a course entitled the Nakagusuku Gosamaru Course has been implemented at three local elementary schools. In this course, children of all grade levels engage in classes conducted using supplementary readers. A supplementary reader entitled “Arinkurin” was also created for junior high school students, who engage in classes conducted during integrated study periods aimed at instilling a love for their hometown.



脳トレ・リフレッシュ体操教室

Brain Training and Refreshing Classes

社会教育 Social Education

社会教育に対する村民ニーズの増大や多様化をふまえ、生涯学習課を中心に各種講座を開講し、社会教育活動をサポートしています。吉の浦会館は、村民の社会活動の中心となり、子供から大人まで多くの村民が学習しています。

生涯スポーツ Lifelong Sports

中城村では、いつでも、どこでも、誰でも気軽にスポーツに親しむことのできる村民交流の場として、吉の浦公園を拠点にスポーツ活動の充実化を図っています。施設の環境づくりや地域、各団体との連携を深めながら、村民のニーズに応えたスポーツイベント、スポーツ教室を開催し、運動するきっかけづくりを行い生涯スポーツの推進に努めています。また、スポーツ推進委員等の指導者育成やサークル活動の支援など普及活動にも取り組んでいます。



ごさまるトリムマラソン Gosamaru Trim Marathon



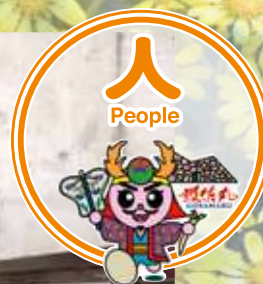
中城村陸上競技大会 Nakagusuku Village Track Meet

Social Education & Lifelong Sports

Given village residents' increasing need for a diverse range of social education, the Lifelong Learning Division of the BOE is leading an effort to support social education activities by holding a variety of lecture series. Yoshinoura Hall plays a central role in social education activities, and many villagers of all ages study about the topic in this hall.

In order to promote social exchanges between villagers, Nakagusuku Village is striving to make Yoshinoura Park a place where everyone can enjoy sports whenever and wherever they want. The village is striving to promote lifelong sports by organizing sporting events and sports clinics that meet the needs of villagers, providing them with opportunities for exercise. It is doing this while improving the environments of its facilities and deepening its collaboration with the region and local organizations. Further, the village is engaged in initiatives that include training for coaches in the Sports Promotion Committee, and the support of its sports clubs as well.

子育て支援・福祉・保健医療



健診の様子 A child receives an exam

子育てにやさしい村 A Great Village to Raise Children

妊婦健診は14回無料、出産後は定期的に行われる乳幼児健診及び保健師、管理栄養士による健康相談、こども医療費の中学校卒業までの助成、少子化対策の一環として、特定不妊治療費用の一部補助、2歳児個別歯科健診のスタートなど子育てにやさしい村づくりに取り組んでいます。

A Great Village to Raise Children

The village is engaged at several initiatives aimed at making it a great place to raise children. These include subsidies that provide 14 free prenatal exams, periodic postnatal examinations for infants, health consultations with public health nurses and registered dietitians, as well as subsidization of children's medical expenses until they graduate junior high school. As part of measures to prevent the falling birthrate, the village also partially subsidizes fertility treatments in some cases, and has also started individual dental examinations for two year-olds.



ベビーケア Baby Care

Child Welfare and Welfare for Single Mothers & Fathers

Nakagusuku Village has strived to create safe and secure environments for the sound physical and mental development of its children. Namely, child welfare facilities including municipal nursery schools, authorized corporations nursery schools, Centers for Early Childhood Education and Care, and children's centers. The village is also working to reduce the burden of families with children through its convalescent childcare and family support center programs. The Regional Childcare Support Center provides support to families with children. It also supports developmentally-challenged children through its monthly Wakuwaku Club meetings.

In order to reduce the burden on single-parent families, the village provides them with partial subsidies for medical expenses, subsidies for after-school child day care costs, and subsidies for the cost of non-registered childcare facilities. Further, the village also encourages families to receive their childcare allowance.



母子及び父子家族の生活支援のため、医療費の一部助成、ひとり親家庭学童クラブ利用料助成、ひとり親家庭認可外保育施設利用料助成を行い負担の軽減を図り、また児童扶養手当の受給を促し福祉の充実を図っています。

児童が心身ともに健やかに育つよう、村立保育所、法人認可保育所、認定こども園、児童館などの児童福祉施設を拠点として、安心・安全な環境を整え育児支援や健全育成を目指します。病児病後児保育事業、ファミリーサポートセンター事業により子育て世帯の負担の軽減を図ります。地域子育て支援センターでは子育て中の親子を支援するとともに月1回のわくわくクラブを実施し、発達面で気になる子を支援します。

児童福祉&母子・父子福祉
Child Welfare and Welfare for Single Mothers & Fathers



カジマヤー慶祝訪問 “Kajimaya” 97th Birthday Celebration Visit



認知症予防講演会
Dementia Prevention
Lecture

高齢者福祉 Welfare for the Elderly

在宅高齢者とその家族の支援、生きがいづくりへの支援など、高齢者が自立しながら暮らせる住みよい地域環境づくりを積極的に進めるため、中城村地域包括支援センター、介護予防事業、認知症予防対策、配食サービス、高齢者等保健飲料給付事業、緊急通信システム、敬老祝い金・地域敬老事業補助金などの各種高齢者福祉サービスを実施しています。また、本村には特別養護老人ホームや老人保護施設が立地し、デイケア、デイサービスなどの介護保険サービスを行っています。



高齢者が安心して暮らせる村

A Village Where the Elderly Can Live With Peace of Mind

【ふれあい事業】

老いても安心して暮らせる地域づくり「ふれあい」活動を行っています。現在は、当間、奥間、浜、北上原、南上原、伊舎堂、登又、和宇慶、津覇、久場、泊、新垣、北浜地域で月1回、ゆんたく会やピクニック、児童との交流などを通じて、高齢者の生きがいづくりや健康意識の高揚に努め、高齢者が暮らしやすい地域づくりに取り組んでいます。

【健康診断事業】

集団健診等の健診事業を実施し、生活習慣病発症及び重症化の予防、健康教室の実施、がん検診の充実（40歳記念総合がん健診及びアミノインデックスリスクスクリーニング）を図り、住民の健康意識の高揚に取り組み健康な村づくりに努めています。



ふれあい事業 Social Events

Welfare for the Elderly, A Village Where the Elderly Can Live with Peace of Mind and Welfare for the Disabled

The Welfare for the Elderly village is proactively working to create an environment where the elderly can live independently by supporting elderly people who live at home, as well as their families, and by supporting activities that help them find their purpose in life. Towards this goal, the village conducts a number of welfare services for the elderly. These include operating the Nakagusuku Village Region Comprehensive Support Center and an emergency communication system, providing preventative care, dementia prevention, home meal delivery service, providing the elderly and others with healthy drinks, cash gifts to the elderly on Respect for the Aged Day, and providing subsidies for regional projects to support the elderly. In addition, the village has several Intensive Care Homes for the Elderly, and Elderly Care Facilities that provide day care and day service, covered by the Long-Term Care Insurance.

[Social Events]

The village organizes social events as part of an initiative aimed at building an elderly-friendly community. These events, intended to help the elderly find something to live for, as well as to raise health consciousness, include Yuntaku-kai (intercommunication meetups), picnics, cross-generational exchanges with children, and more. They are held monthly in the areas of Toma, Okuma, Hama, Kitauebaru, Minamiuebaru, Ishado, Noborimata, Wauke, Tsuha, Kuba, Tomari, Arakaki, and Kitahama.

[Health Screenings]

The village is engaged in health initiatives aimed at providing cancer screenings (40th birthday and AminoIndex® Cancer Screening) and raising the health consciousness of villagers. These include conducting group health screenings and health classes, as well as initiatives to preventing lifestyle diseases from occurring or worsening. In Welfare for the Disabled order to help individuals with disabilities participate in society and gain independence, the village provides a number of welfare services for the disabled, with the central focus on consultation services for the parents of disabled children. The village operates a social activity support center aimed at helping the disabled find reasons for living. Operation of the facility is consigned to the Japan National Council of Social Welfare.



支援センターむつみ「中城公園」にて散歩中

A group from “Support Center Mutsumi” taking a walk at Nakagusuku Park

障がい者福祉 Welfare for the Disabled

障がい者の社会活動への参加と自立を図るため、障がい児者相談事業を中心として、各種の障がい福祉サービスの提供を行っています。社会福祉協議会へ委託している障がい者地域活動支援センター事業をととして、障がい者の生きがい創出に努めています。



各種団体活動の育成



母の日コンサート Mother's Day Concert



中城村青年祭り Nakagusuku Village Youth Festival

青年会 Youth Association

中城村青年連合会では、地域の活性化を目的に「中城青年祭り」を開催しています。村内のイベント応援など、地域と連携を図りながら、青少年の健全育成に繋げていきます。

Nakagusuku Junior Orchestra, Youth Association, Elderly Clubs, Women's Circle

The Nakagusuku Youth Orchestra, formed in August 1980, was Okinawa's first youth orchestra. With a motto of "persistence makes perfect," it has continued to actively hold events like its annual Mother's Day Concert, and is known by the nickname "The Orchestra inside the Sugarcane Field." The orchestra has received awards from organizations like the Okinawan Residence Conference for Youth Development and the Ginowan District Youth Counselor Conference. Practices are held every Saturday from 2 to 5 p.m. in the Hikari Hall at Nakagusuku Elementary school. The orchestra is looking for new members.

The Nakagusuku Village Youth Association organizes the Nakagusuku Youth Festival, which is aimed at invigorating the region. The association contributes to the sound development of young people through collaboration with the greater region, which includes supporting events in the village.

The Nakagusuku Village Elderly Club organizes a number of different club activities, including folk dance, Nagoya harp, and bowling. It also organizes gate ball tournaments, recreation meets, and joint Elderly Club and Women's Circle sports days in order to promote the harmony and health of its members.

The Nakagusuku Village Women's Joint Association proactively organizes a number of activities, including a village beautification competition where participants plant flowers and other vegetation in the village, cooking classes, and study groups aimed at increasing both knowledge and sophistication.

In addition, it also collaborates with groups such as local children's organizations and the Elderly Club in order to promote the development of the village.

1980年8月、沖縄県内で初のジュニアオーケストラとして誕生。結成以来「継続は力なり」を合言葉に、「母の日コンサート」を毎年開催するなど活発な活動が続け、「きび畑の中のオーケストラ」として親しまれています。これまで「沖縄県青少年育成県民会議」「宜野湾地区少年補導員協議会」等から表彰を受けました。毎週土曜日、中城小学校のひかりホールで午後2時から5時まで練習。団員募集中。

中城ジュニアオーケストラ Nakagusuku Junior Orchestra



中城老連グラウンドゴルフ大会
Nakagusuku Elderly Club Ground Golf Tournament



老人クラブ大会及びレクリエーション大会
Elderly Club Tournament and Recreation Meet

老人クラブ Elderly Clubs

中城村老人クラブ連合会では、民舞、大正琴、ボウリングなどのサークル活動が行われ、ゲートボール大会やレクリエーション大会、老人婦人合同運動会などを催し、会員の融和や健康づくりも図られています。



老人・婦人合同レク交流大会
Joint Elderly and Women's Recreation and Exchange Meet



中城村婦人連合会
Nakagusuku Village Women's Joint Association

婦人会 Women's Circle

中城村婦人連合会では、村内を緑と花で包む運動「美化コンクール」や料理講習会、知識と教養を高めるための勉強会など、積極的な活動を行っています。また、子ども会や老人クラブ等と連携しながら村の発展に努めています。

平和・安全

平和派遣事業・慰霊祭
Peace Deployment Project &
Memorial Service

被爆地長崎県で開催される平和祈念式典と、青少年ピースフォーラムに村内の中学生を派遣し、平和推進のリーダーとなる人材の育成と平和意識高揚に努めています。また、中城村全戦没者慰霊祭を毎年開催し、多くの遺族や村民の方々が参列の上、平和を願う戦没者の御霊に黙とうを捧げています。



中城村戦没者慰霊祭

Nakagusuku Village memorial service for all the war dead

Peace Deployment Project & Memorial Service

The village dispatches local junior high school students to the Nagasaki Peace Memorial Ceremony and Youth Peace Forum held in Nagasaki Prefecture as part of an effort to develop leaders of peace promotion and elevate peace consciousness. The village also holds an annual memorial service honoring those who have lost their lives in war. The event is attended by the families of those who lost their lives, as well as many other villagers. Those who attend give a silent prayer for the spirits of the fallen.



青少年ピースフォーラム Youth Peace Forum

消防・救急・交通安全

Fire-fighting, Emergencies & Traffic Safety

中城北中城消防署では、村民に対して日常的な防火・火災・救急などの基礎的な知識の普及や避難訓練などを強化し安心安全な地域環境づくりをめざしています。住宅用火災警報器の設置率向上のため広報活動も強化しており、各自治会へ出張し、設置及び維持管理について説明会を実施しています。

村交通安全推進協議会を中心に家庭・地域・学校及び各種団体などが協力し、村ぐるみで交通安全運動を行っています。また、宜野湾警察署と連携して飲酒運転防止や啓発活動など日常的な交通安全の確保に向けた取り組みを行い、交通事故のない安全なまちづくりを目指しています。



ごさまるの日交通安全運動 Gosamaru Day Traffic Safety Campaign



火災防火訓練

Fire drill and fire disaster prevention drill



瓦礫救助

Rescuing survivors trapped under rubble



救助訓練の様子

Rescue training

Fire-fighting, Emergencies & Traffic Safety

The Nakagusuku Kitanakagusuku Fire Station is striving to make the village a safe and secure environment. To this end, it provides villagers with basic knowledge about day-to-day fire disaster prevention, as well as first aid, and studies about fires while also conducting disaster drills. It has also launched a publicity campaign aimed at increasing the number of homes with fire alarms. In addition, it visits local neighborhood councils and provides information sessions on fire alarm installation and maintenance.

The Nakagusuku Village Traffic Safety Promotion Association leads a village-wide traffic safety campaign in collaboration with local families, schools, and organizations, as well as the greater region. In addition, it conducts a number of traffic safety initiatives together with the Ginowan Police Station aimed at eliminating traffic accidents. These include drunk driving prevention, an awareness campaign, and more.



消防出初式

The New Year's Fire Review



千葉県旭市との児童交流の様子 Exchange with Asahi City



福岡県福智町との児童交流の様子 Exchange with Fukuchi Town

福智町との交流 Exchange with Fukuchi Town

平成28年に兄弟都市提携をした福岡県福智町と毎年夏と冬に児童の交流を行っています。夏には、福智町の児童をホームステイで受け入れを行い、冬には当村の児童を派遣し、環境の異なる地の児童と交流を図り、多くの体験活動を通して児童間の相互理解を深めることができています。

Exchange with Asahi City, Exchange with Fukuchi Town, Study Abroad and Children of Okinawan Emigrants

Nakagusuku Village became sister cities with Chiba Prefecture's Asahi City in 2012. Each year, there are exchange events for children held in the summer and winter. The purpose of these events is to foster a richness of spirit and sociability in the children, developing Nakagusuku's future leaders of the 21st century as leaders in schools and the region.

Nakagusuku Village became sister cities with Fukuoka Prefecture's Fukuchi Town in 2016. In the summer, children from Fukuchi Town stay at homes in Nakagusuku. In the winter, children from Nakagusuku visit Fukuchi. The aim of these exchanges is to promote interaction between children from different environments and to deepen mutual understanding through a wide range of hands-on activities.

Throughout before and after World War II, many emigrants immigrated to other countries from Nakagusuku Village, and as a result, many Nakagusuku Villager Associations remain active around the world.

Since 1996, Nakagusuku Village has hosted young immigrants as trainees as part of an effort to foster friendship and goodwill between Japan and their home countries, as well as to develop the future leaders of the Nakagusuku Villager Associations in those countries.

In addition, the village conducts a short-term study abroad program aimed at giving students an international mindset and improving their ability to adapt to international society. The program gives junior and senior high school students the opportunity to spend three weeks in the United States over summer vacation.



地域間交流・国際交流

Interregional and International Exchange

旭市との交流 Exchange with Asahi City

平成24年に姉妹都市提携をした千葉県旭市と、毎年夏と冬に児童の交流を行っています。児童交流を通して、豊かな人間性や社会性を養い、学校・地域のリーダーとして21世紀の中城村を担う児童育成にも努めています。



海外移住者子弟研修生 Children of Okinawan Emigrants



海外短期留学派遣事業 Study Abroad

海外短期留学・海外移住者子弟研修生

Study Abroad and Children of Okinawan Emigrants

中城村は戦前・戦後を通じて県内有数の移民出母村であり、各国で村人会が活動しています。村では、平成8年度より海外移住者の子弟を研修生として受け入れ、各国との友好親善を図り、各国村人会のリーダーとして活躍する人材の育成を目指しています。

また、中学生・高校生を夏休みの3週間アメリカへ派遣し、国際性豊かな人材を育成し、国際社会に適応する能力や資質の向上を図る目的で、海外短期留学派遣事業を行っています。

歴史・自然環境・公園の整備

歴史的・自然環境の保全・活用

Preserving and Making
the Most of the Historical Natural Environment



本村は中城城跡をはじめ、護佐丸の墓、安里のテラ、新垣グスク、ペリーの旗立岩など優れた歴史的景観を特徴づける多くの文化財が先人から受け継がれています。2000年の中城城跡の世界遺産登録を機に、城跡の修復、城跡周辺の景観保護地区（バッファゾーン）の保全、発掘された出土品の展示施設の整備、文化財案内人の充実・強化等、歴史的・自然環境の保全と活用を図っていきます。また、2015年の3月に、城跡から首里へ向かう歴史の道が国指定史跡（中城ハント道）を受けました。

また、中城城跡を中心とする県営中城城跡公園整備事業が行われており、その中に「喜石原古墓群」の文化財指定も行う予定です。今後は文化財の歴史的、学術的な調査・研究を進め、それら調査研究などの成果を生かし、展示と歴史学習の場の拠点づくりを行っていきます。



ペリーの旗立岩 Perry's Banner Rock



161.8 高地陣地
161.8 Kouchi Jinchi
(High-ground position)



喜石原古墓群
(県営中城公園内)
Kiishibaru Tombs
(In Nakagusuku Park)



護佐丸の墓
Gosamaru's Grave

公園・緑地の整備

Improving Parks and Green Spaces

吉の浦公園は、総合的な運動施設など多様な野外活動施設を備え、村民をはじめ広域的なスポーツ・レクリエーションの拠点となっています。また、農村公園や児童公園などを地域単位で計画的に整備しており、住民の日常的な交流や憩いの場となっています。

Preserving and Making the Most of the Historical Natural Environment, Improving Parks and Green Spaces

The people of Nakagusuku Village have inherited many great cultural properties of historical significance from their predecessors, including Nakagusuku Castle Ruins, the grave of Gosamaru, the Asato-no-Tera Temple (a worship site), and Perry's Banner Rock.

Taking advantage of the opportunity provided by the Nakagusuku Castle Ruins being listed as a World Heritage site in 2000, a number of initiatives to preserve and utilize their natural and historical environment have been launched. These include maintaining a buffer zone around the ruins to preserve the landscape, creating facilities to display artifacts found at the site, improving the cultural property guides. Further, the historical Hanta Path that once ran from Nakagusuku to Shuri was designated as a national historical site in March 2015.

Additionally, a project to improve Nakagusuku Park, which is prefecturally operated and built around the castle ruins, is also underway. The Kiishibaru Tombs located within that park are also scheduled to become a designated cultural property. In the future, the village will conduct historical and academic studies and research of cultural properties, and plans to create a hub for exhibitions and historical studies while utilizing the outcome derived from the studies and research.

Yoshinoura Park has a wide variety of facilities for outdoor activities, including comprehensive athletic facilities. It serves as a hub for the sports and recreation of villagers, as well as people from the wider region. Additionally, parks that serve as places for day-to-day socialization and relaxation are being systematically built on a more local level as well. These include parks in agricultural communities and playgrounds.



歴史の道（中城ハント道）

Historical Path Nakagusuku Hanta Path (Stone-paved Road)



吉の浦公園 Yoshinoura Park



南上原土地地区画整理事業 Minami Uehara Land Readjustment Project

南上原土地地区画整理事業では、地区の特性である自然と調和する生活環境をもった良好な市街地整備を目指して、琉球大学を核とした都市基盤整備を行っています。

自然環境を守りつつ、健全な市街化形成を図る本事業は、中城村のまちづくりの先導的役割を担っており、道路や公園等の公共空間のさらなる利便性向上を図るとともに、「地区計画」の導入や「ふるさとの顔づくりモデル土地地区画整理事業」の指定(平成6年11月)を受け、魅力とうるおいに満ちた街づくりを促進し平成31年度事業完了を予定しています。

Minami Uehara Land Readjustment Project

The Minamiuebaru Land Readjustment Project is building urban infrastructure centered on the University of the Ryukyus, aiming to foster a living environment that is in harmony with nature.

This project, which aims at achieving sound urbanization while also protecting the natural environment, is playing a leading role in Nakagusuku Village's development. It will further increase the convenience of public spaces such as roads and parks. At the same time, following the introduction of district planning and the creation of the "Furusato no Kao Zukuri Model District Planning Program" it will also promote the creation of a community that is both attractive and pleasant. The project is scheduled for completion in 2019.



Waste collection, Recycle, Water Supply and Sewage

Nakagusuku Village formed the Nakagusuku-Kitanakagusuku Cleaning Affairs Association together with Kitanakagusuku Village in 1976. This district previously operated the Aobaen garbage-disposal facility in Nakagusuku Village and the Seikaen raw sewage facility in Kitanakagusuku. However, the raw sewage facility was moved to the Sludge Reclamation and Processing Center (Nishihara Town) operated by the Tobu Cleaning Facility Association in December 2014 in order to further improve sanitation. In addition, population and business growth means more garbage, in both amount and variety. Given this fact, the village is aiming to assuring that all garbage is separated before collection, with the motto "together, it's garbage, separated, it's a resource." At the same time, the village is looking to reduce the amount of garbage by charging for its collection, etc., while also establishing a garbage disposal system that is compatible with the transition to resource recycling.

Water and sewage play a major role in the convenience and comfort of villager's daily lives. The village is working to provide a safe and secure water supply by replacing its obsolete water pipes with newer earthquake resistant ones. In addition, the village is advancing a project to build a public sewage system in order to create a comfortable living environment for its residents. Its ultimate goal is achieving a sanitary treatment system for domestic sewage.



ゴミ収集・リサイクル・上下水道

Waste collection, Recycle, Water Supply and Sewage

ゴミ収集・リサイクル

北中城村と一体になって中城北中城清掃事務組合を昭和51年に設立し、中城村にごみ処理施設「青葉苑」、北中城村にし尿処理施設「青海苑」を運用していましたが、し尿処理については平成26年12月から東部清掃施設組合「汚泥再生処理センター」(西原町)に移管し、良好な生活環境衛生の向上に努めています。また、人口の増加や事業活動の進展によるごみ排出量の増大や質的多様化をふまえ、「混ぜればごみ 分ければ資源」を合い言葉に、分別収集の徹底や生ごみの自家処理の促進、ごみの有料収集などによるごみの減量化、資源リサイクルに対応した処理体制の確立を図っていきます。

上下水道

上下水道は、村民生活の利便性や快適性の向上に大きく寄与しています。古くなった水道管を新しく更新し、地震に強い水道管を整備することで、安全な水の供給に努めています。また、快適な生活環境を創出するために公共下水道の整備事業が進められ、生活污水の衛生的な処理体制をめざしていきます。



市街地の形成・整備・環境衛生・上下水道

Urban Improvement, Environmental Hygiene, Water Supply and Sewage



中城村は農業が盛んな村として知られ、サトウキビを基幹作物とし、野菜類、花き、亜熱帯果樹、畜産など温暖な気候を生かした幅広い農業が行われております。特に島にんじん、島大根は県内でも特産品として位置づけられています。

生産性の向上を目指して、平野部では土地改良事業が行われ、また、農業の活性化を図るため、農村環境の整備や地産地消の推進、特産品のPR活動、生産組織の育成と担い手の育成に努めています。

農業
Agriculture

農業・漁業

Agriculture and Fisheries Promotion

Agriculture

Nakagusuku Village is known as an agricultural hub. Its key crop is sugar cane, but its warm climate makes it suitable for a wide range of agriculture, including vegetables, ornamental plants, tropical fruit, and livestock farming. In particular, shima-ninjin and shima-daikon (Okinawan cultivars of carrot and daikon radish, respectively) are considered to be its specialty even within Okinawa.

In order to increase productivity, the village has been striving to train production organizations and its leaders by implementing land improvement in lowland areas, and maintaining the environments of agricultural communities, and promoting consumptions of products that are produced locally.



漁業 Fisheries

中城村は、延縄、刺網、定置網を主とした漁業を行っています。平成20年度には、製氷設備も改修され、良質な氷を確保することができるようになったことにより、長時間の水産物の鮮度保持や遠方への輸送が行いやすくなりました。また、沿岸海域の環境特性を生かし、シャコガイの放流試験、タマンの中間育成・放流などの栽培事業にも着手しており、活力ある漁業生産の拡大に努めています。

また、平成20年度から24年度にかけて浜漁港の再整備事業を実施しており、漁業の安全性と利便性の向上が図られました。



Fisheries

Nakagusuku is a fishing village, and most of the commercial fishing here is done by longline fishing, gillnetting or fixed-net fishing. In 2008, the ice-making facilities were greatly improved, making it possible to procure high-quality ice. This has made it possible to maintain the freshness of marine products longer, making it easier to ship them to distance destinations. In addition, leveraging the environmental characteristics of its littoral waters, the village is working on a number of aquaculture projects aimed at invigorating its fisheries production. These include experimental stocking of giant clam, as well as the intermediate breeding and stocking of spangled emperor. Further, the village conducted major improvements to the fishing port from 2008 to 2012, improving safety and convenience for the fishing industry.

Commerce, Industry and Tourism 商工業・観光



村の特産品

Specialties of Nakagusuku Village

中城村には、地の利を活かし、知恵と技術が生んだ産品がたくさんあります。大地の恵みを受けた農産物、それらを活用した加工品、匠の技を凝らした工芸品に加え、新しく仲間入りしたものでさまざま。自然に育まれた豊かな食材に愛情を込めた地域自慢の産品の数々です。

朝日陶器有限会社

手づくり菓子の店
なかとみ

洋菓子工房
プチ・スウィート

海ぶどう養殖・販売
海幸

有限会社
レーベン・レブ
きなこや

中城農産加工所

月観光産業株式会社

農業生産法人
株式会社
はごろも牧場

情報発信 ツール “とよむ中城”

“Toyomu Nakagusuku”
Information Dissemination Tool

中城村では、観光情報専門ホームページ「とよむ中城」をはじめ、パンフレット「とよむ中城ガイドブック」や、SNSツール(Facebook「とよむ中城」等)を活用し、村内の観光情報を発信しています。

とよむ中城のホームページやガイドブックは、7言語(日本語、英語、韓国語、繁体字(中国語)、簡体字(中国語)、スペイン語、ポルトガル語)に対応しており、国内外に向けて中城村の様々な情報を発信し観光客誘客を図っています。



観光 Tourism

世界文化遺産に登録された国指定史跡「中城城跡」は、村民の大きな誇りであり、観光の目玉でもあります。現在、県営中城公園の整備、史跡の保全などの事業が進められていると同時に、イベント会場としても活用するなど、地域の特性を生かした利活用を推進しております。また、久場の海浜ではマリンレジャーが盛んで、週末は家族連れでにぎわっています。さらに、南上原地区の高台にある「あがいてい」だ橋からの景色は絶景で、このような資源を活用して観光振興事業に取り組んでいます。



L Feel Coco
(ラフィール・ココ)

島だいこん

島にんじん

商工業

Commerce & Industry

本村の商業は、地元に限らず村外需要に対応した広域的な商業活動が進展しつつあります。工業では、食品加工、製鉄加工業などに加え、新たにエネルギー事業所が営業を行っています。既存企業のサポートを行うとともに、土地利用計画の状況に合わせながら新規事業所の誘致を進め、雇用の確保、地域の活性化を進めていきます。

Specialties of Nakagusuku Village, Tourism, “Toyomu Nakagusuku” Information Dissemination Tool, Commerce & Industry

Nakagusuku Village produces many different products, each of which is created with wisdom and techniques passed down for generations. In addition to agricultural products that have received the bounty of nature, processed products that utilize the latter, and handicrafts made with the skill of true craftsmen, a variety of new products are created each year. The village is proud of its many products, each of which is made with great natural ingredients and tender-loving care.

The Nakagusuku Castle Ruins, a World Heritage Site and Nationally Designed Historical Site, are the pride of Nakagusuku Village, and the centerpiece of its tourism industry. Currently, there are a number of projects in motion aiming to improve Nakagusuku Park, preserve its historical sites, and more. At the same time, the village is promoting the use of the ruins in a way that leverages the region's characteristics, such as using their use as an event venue. In addition, Kuba beach is a popular spot for water sports, and is bustling with families on the weekends. The view from Agai Tida Bridge located on the high grounds of the Minami Uebaru district is also amazing. The village is working on tourism promotion projects that make the most of resources like these.

Nakagusuku Village disseminates tourism information on its Toyomu Nakagusuku tourism information website, as well as by using social media tools such as its Toyomu Nakagusuku Facebook page. The Toyomu Nakagusuku homepage and guidebooks are available in seven languages (Japanese, English, Korean, Simplified and Traditional Chinese, Spanish, and Portuguese) and contain variety of information about Nakagusuku both domestically and abroad aimed at attracting tourists.

Business in Nakagusuku Village is not limited to the local area. Broad-based business activities capable of responding to external demand are gradually growing here. A new energy company has begun operations, joining a list of companies that includes a food processing plant and steel mill. In addition to supporting existing businesses, the village is working to create jobs and invigorate the region by attracting new businesses in line with the land use planning situation.



株式会社
琉球黒麹屋

株式会社
沖縄ホーム

合資会社
ともや農場



中城村内の工業集積地帯

Industrial integrated zone of Nakagusuku Village

1 伊 集

【いじゅ】

村の最南部に位置し、西原町と接している。地名は集落後方の杣山にイジュの木が繁っていたことから名付けられたという言い伝えと、魚がたくさん集まったことにちなんでいるという説もあって定説ではない。古くから民俗芸能が発達し、中でも打花鼓(たふあーくー)と伊集早作田は有名。また、伊集のガマク小や真加戸樽、比嘉ナビーなどの美人の史実や伝説も広く知られている。

2 和宇慶

【わうけ】

村の南部に位置し、伊集に隣接しているため、昔からンジュ・ヲーギと併称されてきた。和宇慶はもともと民俗芸能の盛んなところで、戦前は、和宇慶独自の組踊「護佐丸」を旧一五夜に上演していた。特に「稲しり節」は有名で、ししまい巻棒にも誇るべきものがある。昭和58年、亀甲墓に壁画が発見されたことは、沖縄の古い文化を解明する上から注目すべきものとして話題を呼んだ。

3 南 浜

【みなみはま】

南浜は、廃藩置県後にできた集落で昭和12年に和宇慶より分離独立した。太平洋戦争時に西原飛行場建設のため日本軍、米軍に住居地を接收され、旧集落に戻れないまま今に至る。70世帯200名余の村内で最も高齢化が進んだ地域となっている。今後MICEに関連して南浜の発展が期待される。正月のハチウクシーの中でアサトガーをおがむ伝統が守られている。

4 北 浜

【きたはま】

廃藩置県後、土地整理までの間に、首里から一部は津覇に、主として和宇慶の北浜原に移住して形成された屋取で、昭和12年に南浜とともに和宇慶から分離独立した。村内では、最初に土地改良事業が実施されている。昭和57年からはビニールハウスが導入され、トマトなどの野菜類が栽培されるようになり現在にいたっている。中城でも有数の農業地帯である。

5 津 覇

【つは】

村の東南部に位置し、東は中城湾に面する。地形は斜面部と平坦部からなるが、集落は国道の東側の平坦部に密集している。平坦部の耕作地は肥沃でサトウキビなどの生産性が高く、最近では花卉園芸作物も栽培されている。戦前から民俗芸能の盛んな所で、特に獅子舞は有名。国道の西側にそびえる上津覇の山には「上津覇遺跡」があり、炭化米、土器片などが発見されている。

6 奥 間

【おくま】

国道西側の集落内には学校給食共同調理場がある。津覇との境界線、集落の南西部には琉球大学、那覇方面へ通じる村道があり、県道的役割を果たしている。斜面部の地形は必ずしも農耕地として最適とはいえないが、盆地状の地形を活かして、果樹及び野菜の生産が行われている。

7 浜

【はま】

村の東部、奥間の東約500メートルに位置し、東は中城湾に面する。地形は南浜・北浜と共に海岸低地地域だけで形成され、集落は密集している。もと、奥間に所属していたが、沖縄戦直後の昭和21年に分離独立して一自治会を新設した。本村唯一の漁港があり、字民の多くが漁業に従事している。サトウキビの生産も活発。

8 安 里

【あさと】

海岸近くに吉の浦公園があり、平坦部の一角にはビジュル信仰の対象となっている安里のテラ(安里権現)がある。その周辺一帯は、土地改良事業により農地が整備されているが、安里のテラの聖域はそのまま保持されている。殿地山に殿があり、その東側の安里クボーと称する丘に拝所がある。集落の西側の丘陵地にグスク時代の遺跡があり、サトウキビの生産も行われている。

9 当 間

【とうま】

村の政治・行政・教育・文化の中心であり、国道に沿って村役場、中城郵便局、中城中学校、JAなどがある。海岸近くには村地区公園運動場、吉の浦会館などの施設が並び、ホームルの食品缶詰工場も建設されている。代表的な伝統行事に綱引があり、特に7年に1度行われる大綱引は注目される。



とよむ 21自治会



あふれる自然と活力ある コミュニティー

中城村には21の自治会があり、中城城跡をはじめ歴史的な文化財が数多く残る、活気溢れる村です。

10 屋 宜

【やぎ】

屋宜海岸を屋宜の浦といい、古くは吉の浦と称した。地形は斜面部と平坦部からなり、村落は国道の西側にも分布するが、主として平坦部に立地し、海岸近くまで及んでいる。なお近世につくられたと伝えられるスガチミチ(潮垣道)より東側は、それまで海だったとされている。集落発祥の地とされる玉城之殿は国道西側にあり、住民の信仰の対象である。ヤージマンドゥルチも文化のかおりが高い。

11 添 石

【そえし】

村老人福祉センターの近くには「レンコン井戸」があり、昔レンコン栽培が行われていた時に使用されたとされる。中城村の慰霊塔も近くに建立されている。中城城跡近くにあるシーシガンワの山に集落跡の遺跡があり、土器、青磁などが発見されている。平成17年、に「添石の旗頭」が復活し、毎年旧7月17日のハタスガシのウガンに、区内4カ所の拝所で旗頭を奉納している。

12 伊舎堂

【いしゃどう】

添石に隣接し、昔からシーシ、イシャドウと併称された。かつての古い集落は、久場の台城付近の伊舎山に立地していたというが、人口の増加と農業の進捗につれて現在の肥沃な平坦地に移動したと推定されている。三本ガジマルは有名であり、琉歌の「思ゆらば里前島とまひていまうれ 島や中城 花の伊舎堂」も県民に広く知られている。

13 泊

【とまり】

大正期までは海岸に泊港があって、船舶が止まっていた。西方には中城城跡があるほか、中城按司の末裔と伝えられる根所の泊大屋もあって、各地から参拝者が訪れる。伝統芸能の稲摺節は有名。また、樹齢400年の泊大クワディサーは、沖縄県の名木百選に登録されている。

14 久 場

【くば】

村の北端に位置し、村で最も高い台城からのぞむ久場の地名は、ヤシ科ビロウ(クバ)にちなむとされている。戦前の集落は、現公民館の北側にあったが米軍に接収されたため、区民は数年間、伊舎堂、添石地区に間借りして生活し、その後一部泊地番を含む地域に新集落を建設し、移動した。接収から36年目に返還され、土地区画整理事業竣工後は、人口増加にある。

15 登 又

【のぼりまた】

明治の初期、首里・北谷などから移住した人たちがステバナ(袖花)、ヤラグワー(屋良小)という屋取を構成し、添石・屋宜・伊舎堂・久場に所属していたが、昭和6年に行政区として分離独立。昭和29年、北中城村大城との境界に中城ダムが建設されて、一部水田も開かれていた。自治会を中心に、正月の門松づくりや敬老会、昆虫観察会や夏祭りなどの行事が活発に行われている。

16 新 垣

【あらかき】

12～13世紀頃に作られたといわれる新垣グスク跡には集落跡があり、古い遺物も出土している。平成27年に国指定史跡になった新垣グスクの北側にターチャーイシと呼ばれる二つの岩山があるが、これが1853年にペリー提督の探検隊が旗を立てた「旗立岩」である。新垣の東部には中城城跡に通じるハンタ道(端道)という昔からの道がある。

17 北上原

【きたうえばる】

廃藩置県後に、首里や北谷などから移住した人々によってつくられた屋取集落で、新垣・当間・安里・奥間に所属していたが、明治36年以降分離独立して行政区になった。沖縄県消防学校が所在している。標高161メートルの高い丘があり、そこからは太平洋が一望できる。集落は南北に走る県道29号線沿いや榕原を中心に各地に点在している。

18 南上原

【みなみうえばる】

イージャガーを源流とする普天間川が北流している。東側のがけに沿って北は北上原、新垣を経て中城城跡、西は西原、首里方面へ通じるハンタミチがあった。糸蒲は沖縄における田芋の発祥地といわれている。地内に琉球大学が移転したことにより1980年ころから住宅やアパートが増加し、人口も激増して、現在中城村の中で、最も人口が多い地域になっている。

19 県営中城団地

【けんえいなかぐすくだんち】

平成4年4月に誕生した自治会。県道29号線の南上原から国道329号の奥間を結ぶ道の途中に位置し、眼下には美しい中城湾が広がっている。自治会では8月の夏祭り、1月の餅つき大会のほか、子どもを中心として隔月1回、バスツアーや宿泊研修などを行っている。

20 サンヒルズタウン

【さんひるずたうん】

サンヒルズタウンは登又と新垣の地番が混在した閑静な新興住宅地として平成5年に誕生した。平成6年7月の自治会発足以来、夏祭りのイベント開催や年間行事多彩な子供会活動、及び8班から成る闊達な自治会組織の活動を通して区民交流の促進を行い、地域ぐるみで花いっぱい清潔で住み良い街づくりに努めている。

21 県営中城第二団地

【けんえいなかぐすくだいにだんち】

伊舎堂と泊の集落境にある若緑色のドーム屋根が特徴的な7階建て56世帯の小さな団地。平成11年4月に行政区となり、自治会、子ども会が一体で毎月の清掃、正月のムーチー作り、ジャガイモ堀りなど、親子で楽しく活動に取り組んでいる。グラウンドゴルフやBBQ大会、敬老会の親睦行事のほか消防避難訓練など防災にも力を入れている。



田芋「ターナム」のはじまり

むかし なかぐすくむらの いとかまというところに いとかま寺 という お寺がありました。おてらには きんむら生まれの おぼうさんがすんでいました。

ある田のことです。おぼうさんが お寺うらの あぜみちをさんぽしていると きらきらとひかる ふしぎなはっぱをみつけました。

ちかづいてみると そのはっぱは いままでみたことのない めずらしいかたちをしていました。

どうやらはっぱが あさつゆをうけ たいようのひかりをあびて かがやいているのです。

「あまがさになりそうないっぱなはっぱじゃのー。どれどれ よっこらしょっと」

おぼうさんがひっこめてみると ねもとからはみたことのない おやいも こいも がぞくぞくでてきました。

「これはめずらしいいもじゃのー……たべられるものかの？」

おぼうさんは いもをもちかえり お寺のいけにうえてみることにしました。するといもはどんなせいちょうし ーねんごには いけいちめんに ひろがっていました。

いっぽにぞだった はのねもとをほってみると、なんとたくさんのイモができていました。さっそく おなべに水をはって ぐらぐら ゆでて たべてみると あまい おいしい いもでした。

このはなしを きいた むらの 人びとも おぼうさんから いもを わけてもらい 田んぼに うえました。大きくぞだったころ ほりおこし たべてみると……

「これはうまいーいままでたべたことのない おいしいものだ」

「おぼうさん、こんなおいしい いもを わけてくれてありがとうー」

むらの人たちはあまいおいしいいもにおどろき いもをわけてくれたおぼうさんにおれいをいいました。

それからというもの、このいものはなしはあっといまにくにじゅうにひろまっていききました。そのいもは、水のゆたかな田んぼでぞだてられたことからターナムとよばれるようになりまし

た。いとかま寺は 南上原にあったといわれ ターナムがひろがったところとして かたりつが



中城村民の歌

作詞 新垣秀雄
作曲 田場盛徳

一、

うるまの島の 中ほどこに
聳えて立てる城の跡
裾にひろがる うまし野や
月さやかなる 吉の浦
とよむその名も かぐわしく
ああ 揺るぎなき 中城

二、

教えの道も 一筋に
照らすかがり火 受けつぎて
歴史の重なり しみめて
のぞみゆたかに なごやかに
あゆむ足どり かるやかに
ああ 豊かなる 中城

三、

嵐もなにか 輪になれば
老いも若きも はつらつと
あすへのぞみ いや高く
今日のつとめ 目ざめつつ
とよむその名を 呼びかわし
ああ 栄えゆく 中城



中城村勢要覧 発刊のあいさつ

中城村長 浜田 京介



中城村は沖縄県本島中南部の中央に位置し、世界遺産「中城城跡」をはじめ、先人達から受け継がれてきた歴史的文化財と豊かな自然環境を核に、「とよむ」中城として発展して参りました。「とよむ」とは、鳴り響くという意味で、琉球王朝時代の琉歌に由来し、文化・生活、全ての面で活気があり、世に響きわたる理想的な村の姿を表すと考えられています。

当村では平成28年5月に、村の新たなシンボルともいえる中城村護佐丸歴史資料図書館の開館を迎え、同年6月には村人口が2万人を突破しました。また、現在多くの村民が待ち望む村役場の新庁舎建設に取り組んでおり、今後ますます輝かしい未来にむけ村づくりを進めているところでございます。特に、子育て支援に力を入れており、豊かな自然と都市近郊部である特性を活かしながら、安心して子育てができる環境整備や施策など、総合的な子育て支援を推進しております。

これからも中城村が未来永劫に「とよむ」ために、村民の皆様にご指導御助言を賜りながら、中城村に住みたい・住み続けたいと思えるむらづくりに尽力して参ります。

この村勢要覧が当村の魅力を多くの方に紹介するとともに多くの皆様に活用され、お役に立つことができれば幸いと存じます。

Greeting

Nakagusuku Village is located in the middle of the central-southern regions of the Okinawa main island. Encompassing an abundant natural environment, World Heritage Site Nakagusuku Castle Remains and other historical cultural properties which have been handed down to us today from our ancestors, “Toyomu” Nakagusuku has developed. “Toyomu” means “to ring out.” The word originates from a traditional Ryukyuan song composed during the days of the Kingdom of the Ryukyus. It is understood as expressing an ideal village that is bursting with energy in terms of its culture, livelihood and all aspects, resounding throughout the world.

In May 2016, Nakagusuku Village celebrated the opening of Gosamaru Historical Materials Library, a new symbol of the village. In June, the village population passed the 20,000 mark. In addition, we are working on the construction of a new building for the village office, which many residents are looking

forward to, and are proceeding to develop Nakagusuku Village with the goal of creating an even brighter future. A particular emphasis has been placed on support for mothers and fathers. Making use of the village’s bountiful nature and close proximity to urban areas, we are providing comprehensive assistance for raising children in the form of policies and measures, and improving the environment so that parents can bring up their children here in Nakagusuku Village, with a peace of mind.

So that Nakagusuku Village will continue to resound throughout eternity, while benefiting from the good counsel and advice of our village residents, I will devote all my efforts to making our village a place where people want to live and want to continue to live.

It is my sincere hope that this profile of Nakagusuku Village will show the charm and appeal of our village to many people, and be used and be of use to many people as well.

Mayor, Nakagusuku Village
Keisuke Hamada



議会 Municipal Assembly



副議長
宮城 重夫
Deputy Speaker
Shigeo Miyagi



議長
與那覇 朝輝
Speaker
Chouki Yonaha



議会だより
Assembly Bulletin

Municipal Assembly

The Nakagusuku Village Assembly is comprised of 16 members chosen in a direct election. The Assembly deliberates and makes decisions on important matters, including village ordinances and budgets. It assembles at periodic intervals and holds extraordinary sessions whenever necessary. Moreover, a committee system, which is comprised of the Standing Committee on General Affairs, Standing Committee on Construction, and Standing Committee on Culture, Education and Social Issues, has been established to provide forums with more efficient discussions on issues from specialized perspectives.

中城村を実りある未来へ

Guiding Nakagusuku Village Toward a Prosperous Future

議会

中城村議会は直接選挙で選ばれる十六人の村議会議員で構成され、村の条例や予算などの重要な事項を審議決定しています。議会には定期的に開かれる定例会と必要に応じて開かれる臨時会があり、さらに、専門的な立場で効率的な審議をする場として委員会制度（総務常任委員会、建設常任委員会、文教社会常任委員会）を設けています。

中城村民憲章

(昭和五十四年三月十日 告示第十三号)

わたしたちの中城村は、誇りある歴史と豊かな美しい自然に恵まれ、産業、教育、文化の村として発展してきました。

わたしたち村民は、郷土を愛し村民としての誇りと責任を持ち、みんなの協力によってより明るく住みよい豊かな郷土を築きあげることを念願し、ここに村民として実践していくべき日常生活の信条としての憲章を定めます。

- 一、緑を育て清潔な住みよい環境の村をつくりましょう。
- 一、時間ときまりを守り明るく村をつくりましょう。
- 一、健康で生産に励み豊かな村をつくりましょう。
- 一、親切で助け合いなごやかな村をつくりましょう。
- 一、文化を守り育て教養を高め心豊かな村をつくりましょう。
- 一、青少年をすこやかに育てしあわせな村をつくりましょう。
- 一、海外雄飛の伝統を守り伸びゆく村をつくりましょう。

Nakagusuku Village Charter

With pride in our history and beautiful natural surroundings, we have developed Nakagusuku-son as a village of industry, education, and culture.

We love our home province and feel a responsibility and pride as people of this village. We have therefore created a charter to formalize the tenets we need to follow in daily life as we work together to make the village a more pleasant, abundant and better place to live.

Let us build:

A village that provides a clean living environment with cultivated greenery.

A happy village wherein people keep to schedules and follow rules.

A healthy, abundant village that encourages production.

A friendly village where people are kind and help one another.

A spiritually rich village that protects, promotes, and refines its culture.

A happy village that raises healthy youth.

A growing village that preserves its traditions in which the people are actively engaged in various activities abroad.



What changes

変わりゆくもの

東部海岸部は豊かな土壌に恵まれた農業。

平坦な土地に商工業が発展。

西部高台は琉球大学を中心とする

若い学園都市。

私たちは伸びゆく中城村です。



中城村村勢要覧

発行：平成29年4月

編集：中城村役場企画課

〒901-2493 沖縄県中城村字当間176番地

TEL 098-895-2131

FAX 098-895-3048

<http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/>

制作・印刷／有限会社サン印刷

<http://www.sun-insatu.co.jp/>